

平成17年度

(2005年度)

# 海外技術研修員等 研修報告書



しゃんしゃん祭 (鳥取市)

鳥 取 県

## はじめに

「海外技術研修員受入事業」は、将来を担う海外の青年を「海外技術研修員」等として招き、必要な技術を習得していただくものです。母国の発展に貢献する人材を養成するとともに、県民との友好親善を図ることを目的としています。

鳥取県では昭和62年度、友好関係にある中国河北省から「農業研修生」「緑化研修生」として5名を受け入れて以来、平成16年度までにブラジルから27名、中国から121名、モンゴルから14名、パラグアイから1名の合計163名を受け入れてまいりました。

このほかにも「韓国江原道行政実務研修生」「外務省長期青年招聘事業研修員」「国際協力機構（JICA）自治体連携研修員」として来県した研修員も5カ国22名に上ります。また、ブラジルからの県費留学生も16年度まででのべ53名となり、自治体レベルでの国際協力は着実に進展しております。

本年度は「海外技術研修員」としてブラジルから1名、モンゴルから1名の合計2名が、6か月から10か月の間、県内の関係機関で研修を受けました。ブラジルからの県費留学生1名も鳥取環境大学において勉学に励みました。

海外の地方自治体職員が日本の地方行政のノウハウなどを修得するための「自治体職員協力交流事業」では、平成8年度から16年度までにベトナム、韓国、マレーシア、中国から合計16名を受け入れております。本年度は、中国から2名が来県され、鳥取県庁において研修を行いました。

これら研修員・留学生の皆さんは、言葉や気候・生活習慣の違いという壁もありましたが、研修機関の熱心な御指導もあり、技術・知識の習得に励むことができました。また、研修期間を通じての日本語学習のほか、県内および国内各地を訪れ、日本文化への理解を深めるとともに、県民との交流に努められました。

帰国後は、研修や勉学の成果を十分に生かし、母国の発展に貢献するとともに、わが国との友好の架け橋となってくれると期待しております。

この報告書は、研修員・留学生が学んだ内容や日本や鳥取県の印象などをまとめたものです。研修員の皆さんの意気込みと成果を読み取っていただければ幸いです。

最後になりましたが、事業の実施にあたり御協力いただきました関係機関の皆様に、厚くお礼申し上げます。

平成18年3月

鳥取県総務部国際課長 吉川 寿明

# 目 次

平成17年度海外技術研修員等一覧	2
海外技術研修員	3
サンドラ アケミ ナリタ（ブラジル）	4
ウダバルバダム エルデネバト（モンゴル中央県）	12
自治体職員協力交流研修員	19
李 艶萃（リ イェンピン）（中国吉林省）	20
張 碩（チャン シュオ）（中国河北省）	36
県費留学生	49
スエナガ アユミ（ブラジル）	50
過去の研修生・留学生の名簿	59
海外技術研修員	60
中国河北省技術研修生	61
中国河北省農林漁業研究者	62
中国河北省農業研修生・緑化研修生	62
中国黒竜江省農業研修生	65
韓国江原道行政実務研修生	65
自治体職員協力交流研修員	65
外務省長期青年招聘事業研修員	66
国際協力機構（JICA）自治体連携研修員	66
ブラジル県費留学生	67

## 平成17年度海外技術研修員等一覧

### 1. 海外技術研修員（2名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
ブラジル	サンドラ アケミ ナリ タ	女	25	報道	新日本海新聞社等	H17.6 ～ 18.3
モンゴル (中央県)	ウダバルバダム エルデ ネバト	男	34	農業	県立農業大学校、園 芸試験場	H17.4 ～17.10

### 2. 自治体職員協力交流事業（2名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
中国 (吉林省)	李艳苹 (リ イエンピン)	女	41	商工行政	鳥取県商工労働部 経済交流課	H17.5 ～ 18.3
中国 (河北省)	張 碩 (チャン シュオ)	男	26	環境行政	鳥取県生活環境部 環境政策課	H17.5 ～ 18.3

### 3. 県費留学生（1名）

国名	氏名	性別	年齢	分野	主たる研修先	期間
ブラジル	スエナガ アユミ	女	25	環境政策	鳥取環境大学	H17.4 ～ 18.3

海外技術研修員  
(ブラジル、モンゴル中央県)

## 1. 研修員プロフィール



氏 名 サンドラ アケミ ナリタ  
年 齢 25歳  
国 籍 ブラジル  
出 身 バイア州サルバドール市  
研修分野 報道

## 2. 研修機関の概要

機関名 新日本海新聞社（鳥取市富安二丁目137）

代表者 社主 吉岡 利固

指導者 編集制作局長 田中 仁成

機関名 日本海ケーブルネットワーク株式会社（鳥取市富安二丁目137）

代表者 社主 吉岡 利固

指導者 編集制作部チーフプロデューサー 長田 弘彦

機関名 日本海テレビジョン放送株式会社（鳥取市田園町四丁目360）

代表者 代表取締役 馬場 俊明

指導者 報道制作部長 福田 仁志

## 3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2005. 6. 2	来日
6. 3	しまね国際研修館開講式
6. 29	くりんぴーすりサイクルプラザ見学
7. 1	八雲町ホームステイ（2日まで）
8. 1	日本海新聞での研修開始
9. 1	日本海ケーブルネットワークでの研修開始
9. 13	海外日系人大会に参加（東京、15日まで）
9. 20	鳥取県国際交流財団主催の研修旅行で東京方面へ（21日まで）
10. 27	中国・四国海外技術研修員合同交流事業参加（広島、28日まで）
12. 20	日系留学生等中央研修会参加（23日まで）

2006	2.	1	日本海テレビでの研修開始
	2.	4	鳥取県国際交流財団主催のエクスカージョン参加（智頭町雪祭りなど）
	3.	17	研修修了式・送別会に出席。研修成果を発表
	3.	20	副知事に帰国前あいさつ
	3.	23	離日

#### 4. 研修報告

##### はじめに

日本に来る前に両親と祖母と日本について話したり、写真を見たり、テレビと本から日本の事を学び、イメージをしてきました。ブラジルと日本は全然違う国だと思いました。日本にいる間に文化と習慣と食べ物などの違いをもっと強く感じました。だから始めは生活に慣れるのは少し難しいと感じました。でも、友達がふえるにつれて、また松江で先生たちがたすけてくれたりして、だんだん日本に慣れてきました。

##### 日本語研修

しまね国際センターでは2カ月間、日本語を勉強しました。授業は9時から4時まででした。授業の前にみんなで台所とトイレと教室の掃除をしました。日本では小学生も掃除をしていることを知っていて、始めは厳しい事だと思ったけど、あとでそれは重要な活動だと思いました。

松江での勉強は私にとってとても役に立ちました。日本語を話せることができなかつたから、毎日少しずつ勉強して、なんとなく分かってくるようになりました。また、友達と日本語で話すようにしていましたから、日本語の学習は楽しいものでした。中国、ロシア、ブータン、インドネシアからの人たちと一緒に勉強したり、生活したり、いろいろ違う国の生活や文化を学びました。私たちは、授業の後は自分の部屋で宿題をして、先生の説明の復習をしたり、みんなで集まって、夕食を食べたりしました。授業の後も友達と国際センターの前を時々散歩したり、良い景色を見たり、話をしたりしました。

松江で日本語の勉強だけではなく、日本の文化と習慣を学びました。例えば、茶道とどじょうすくい踊りと銭太鼓を教してもらいました。他に、日本の交通ルールと防災についての講演もありました。日本でのごみのリサイクルの方法も習いました。ブラジルではごみのリサイクルはほとんど行われていないので、日本のリサイクルの現実を知って驚き、ごみの種類を分けることを学びました。国際センターで生活の中でゴミを分別していたのでくりんぴーすりサイクルプラザを見学した時には、日本でのごみは本当に

全部ごみではないことがよく分かりました。

また、松江での研修スケジュールの中でホームステイをしました。2日間、日本人の家族の家に滞在し、たくさん交流できました。日本とブラジルの事を話したり、日本料理を食べたり、楽しかったです。その間に、他のホストファミリーや国際センターの友達と一緒にみんなで手うちそばを作って食べました。

## 自分のルーツ

私は子供のころ、毎日の生活ではポルトガル語しか話せませんでした。みんなポルトガル語を話しているのに、どうして私は日本語を話さなければならないのか、分かりませんでした。でも、大きくなるにつれて、その考え方は変わってきました。

私が日本に来たのは、自分のルーツを知りたいということも目的の一つでした。私はブラジル人ですが、鏡を見ると日本人の私もいます。私の祖先は日本人です。日本にいるいろいろな親戚に会いに行きました。お正月に、米子に行って、祖父の親戚たちと会うことができ、とてもうれしかったです。その時、祖父の生まれたうちにも連れて行ってもらって、家族と祖父の人生についていろいろ話しました。

ブラジルに帰ったら、祖母と家族にその日本で話した内容を伝えたいです。また、日本語の勉強を続けたいし、生活するときはポルトガル語と日本語を話したいです。

## 専門研修について

### 1. 日本海新聞

日本海新聞では1カ月間、研修をしました。その間に記者と一緒に取材をしたり、時々写真をとったり、新聞を読む練習をしていました。まだ漢字が読めなかったので、いつも他の人に漢字の読み方と意味を聞いていました。みんな私にとってもやさしくくださり、私をたくさん助けてくれました。機会があるときには記事を書く練習もして、一回だけ小さい記事をのせてもらいましたが、それはとてもいい日本語の勉強になりました。鳥取での特別なイベントの時に研修生として記者と一緒に取材をしました。しゃんしゃん祭りや花火の日に写真をとって、新聞の取材をする方法を見ました。私はスポーツに興味があるので、スポーツの取材の経験もできて、よかったです。

日本海新聞で号外記事を出す例を見ました。日本の郵便局の民営化問題についての号外でした。日本海新聞はより多くの人に読んでもらいたいと考えて、そうしたと思いました。また、号外は重要なニュースなのでもっと詳しい記事が必要です。最近では情報伝達のスピードが以前よりもずっと早くなっているので、より早くニュースを伝えることはとても大事な事だと思います。現在では、紙の新聞だけではなく、オンラインの新聞がだんだん増えてきていて、その新しいメディアの重要さと特徴について認識が必

要だと思えます。

## 2. 日本海ケーブルネットワーク

日本海ケーブルネットワークで5カ月間、研修をしました。日本海ケーブルの番組は鳥取市と倉吉市と三朝町で放送されていて、地域の事について取材をします。市民にとっての身近にあった情報は大切なので、地域のマスコミは責任が大きいです。例えば、全国で大きな台風が上陸した時に、テレビは必要な情報手段の一つです。NCNで研修した時に、いい地域の放送を見ました。台風について詳しい情報を伝えたり、市議会の生放送をしたり、それから「まなびピア」の特別な番組を制作しました。ブラジルでは地域のテレビ局に勤めていましたので、地域についての情報を伝える重要さをよく考えました。自分の県と町の素顔を伝えるのに、地域の芸術と文化と政治などの情報は大事です。

研修の中でNCNのスタッフと一緒に取材のしかたを見て、取材から帰った後は編集のカットとインサートなども見ました。展示の取材の時にカメラの使う機会もありました。空いている時間には日本語を勉強していました。他に、3回シリーズの番組の企画・制作にも携わりました。その中で、自分の経験や日本の印象、日本に来ての驚きや発見について紹介をしました。また、ブラジルと日本のあいさつの違いや、スポーツ・食べ物・文化などの違いについても話しました。番組の制作に関わったことは、いい体験でした。

## 3. 日本海テレビ

日本海テレビで1カ月間、研修をしました。日本海テレビは日本テレビ系列のテレビ局で、東京からの全国ニュースを放送して、また島根と鳥取のニュースも放送しています。制作する「鳥取why?」と「ごじきん!」という番組は、より地域に密着した情報番組です。その二つの番組の取材に同行しました。「ごじきん!」の場合はお店や食べ物などの紹介やインタビューもあり、ニュースの部分もあります。この番組は伝え方にユーモアがあります。スタジオから生放送を見ました。また、空いている時間にはテレビが作った番組とドキュメンタリーを見ました。

日本海テレビではニュースの編集をする時にリニアとノンリニアの編集機械を使います。(ノンリニアはパソコンを使ってデジタル編集をする機械です。)ノンリニアの編集の仕方を見て興味がわいてきました。ブラジルで勤めたテレビ局では特別な番組にだけノンリニアの編集機械を使います。その機械はたくさんツールがあるので、編集に時間がもっとかかりますが、映像を切りとったり編集したりするのは、簡単になります。ブラジルに帰ったら、その機械の使い方についてもっと勉強したいと思いました。

## 生活

私の日本での生活の中には、いろいろブラジルの生活との違いがありました。松江では自転車で友達と一緒にあちこち行って、買い物をして、面白かったです。ブラジルでは自転車の道が余りないから、乗るのは不便です。

日本では自分でお弁当を作るという、新しい経験をしました。わたしは料理が下手ですが、ちょっと上手になりました。ブラジルでは日本食をあまり食べなかったのに、日本にいる間になれてきました。

日本に来て、12月の始めに、初めて雪を見て、感動しました。その時に、私の部屋の窓から雪を見ながら、家族に電話で「雪が見える！とてもきれいよ！」と伝えました。

また、日本の伝統的な行事も見ました。七五三としゃんしゃんまつりと、国際交流財団のエクスカージョンに参加した時に智頭町の雪祭りも見て、楽しかったです。

## 日系人大会、研修旅行等

私は東京で二つの大会に参加しました。一つは日系人大会です。いろいろな南米の国の日系人もその大会に参加していて、いい討議をし、交流をすることができました。それぞれの国の日系人社会の状態や問題や良い面について話して、レポートを書いて、紹介しました。そして、将来になにかいい活動をするために努力しなければならないということを考えました。最近の若い世代と前の世代は考え方の違いもあるようなので、もっと交流が必要です。その他、日系人の若い世代は日本語に対する興味がだんだん減少しているようだと思います。

二つ目の東京の大会は冬の中央研修会です。その大会でも日系人社会について聞き、いろいろな大切なことを考えました。まず日本太鼓の種類を紹介されました。つけしめ太鼓と長胴太鼓と平太鼓などです。「言葉と文化」と「カルチャーショック」の講演も行われました。最初は言語の違いについて説明をされました。また別の講演の中で日系人社会の問題について聞きました。日本に住んでいる日系人は健康に問題がある人が多いです。心の病気がある人も多いです。とくに出稼ぎの人たちは働きすぎと、環境がとても違う生活のためにその問題が生じると思います。研修会で最後に科学未来館と証券取引所を見学しました。

東京では研修旅行にも行きました。私と他の鳥取の研修生といろいろな所を視察して、楽しかったです。一つは国技館での大相撲観戦です。私はスポーツが大好きで、日本の伝統的なスポーツを見ることができたので、とても嬉しかったです。

広島での合同研修会にも参加しました。その時、いろいろな世界の国からの研修生と留学生は自分の日本の印象と勉強と体験について話しました。また、宮島と原爆ドームと平和記念資料館を見学しました。

## 終わりに

日本に来ていろいろな体験ができて、たくさんいい思い出になりました。また自分の専門の研修で学んだことも、ブラジルに帰ってきつと役に立つと思います。日本で友達を作ったり、他の国の人と交流をして、とても楽しかったです。また自分のルーツをもっと知り、いろいろな気持ちが変わってきました。日本にいる間に心の中で私と日本の関係はもっと強くなりました。この機会を下さって、心から本当に感謝いたします。



くりんぴーすでのリサイクル体験



米子市内の親類の自宅で

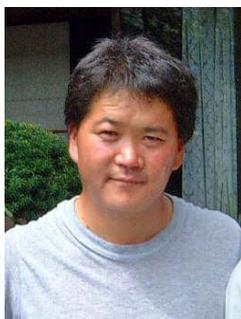


しゃんしゃん祭の練習



職場の同僚と一緒に七五三参り

## 1. 研修員プロフィール



氏 名 ウダバルバダム エルデネバト  
 年 齢 34歳  
 国 籍 モンゴル  
 出 身 モンゴル中央県アンタンブラグ町  
 研修分野 農業（野菜栽培）

## 2. 研修機関の概要

機関名	鳥取県総務部国際課	鳥取市東町一丁目220
	鳥取県立農業大学校	倉吉市関金町大鳥居1238
	鳥取県園芸試験場	東伯郡北栄町由良宿2048
	鳥取県園芸試験場弓浜砂丘地分場	境港市中海干拓地27
	鳥取県園芸試験場日南試験地	日野郡日南町阿毘縁1203-1

代表者	鳥取県総務部長	瀧山 親則
指導者	鳥取県総務部国際課長	吉川 寿明
	鳥取県立農業大学校長	真山 育雄
	鳥取県園芸試験場長	井上 耕介
	鳥取県園芸試験場弓浜砂丘地分場長	鹿島 美彦
	鳥取県園芸試験場日南試験地長	小林 弘昌

## 3. 研修経過

月	日	研 修 内 容
2005.	4. 16	来日（成田空港到着）
	4. 17	日本語研修を開始（しまね国際研修館）
	5. 13	日本語研修の発表会・閉講式・交流会に出席。
	5. 16	農業大学校での研修を開始。
	5. 30	倉吉市役所を表敬訪問。
	6. 8	鳥取県庁にて出納長を表敬訪問。
	6. 21	第一回意見交換会（農業大学校）
	7. 27	第二回意見交換会（農業大学校）
	7. 29	研修員・県費留学生合同歓迎会に参加（鳥取市内）

8. 22	園芸試験場日南試験地での研修を開始。NHKの取材を受ける。
9. 1	園芸試験場弓浜砂丘地分場での研修を開始。
9. 12	園芸試験場本場での研修を開始。
9. 16	実地研修をすべて終え、鳥取市内へ移動。
9. 20	鳥取県国際交流財団主催の研修旅行で東京方面へ（21日まで）
9. 26	菌茸研究所（鳥取市）、鳥取大学乾燥地研究センター（同）を見学
9. 27	副知事に帰国前あいさつ。国際課にて研修報告まとめ（29日まで）
9. 29	研修修了式、送別会に出席。
9. 30	鳥取空港より離県。
10. 1	成田空港より帰国。

#### 4. 研修報告

皆さん、こんにちは。

私は、鳥取県で野菜栽培や収穫について5カ月間の研修をしました。皆様のお陰で研修を無事に終えることができ、大変感謝しております。

##### （1）松江での日本語研修

2005年4月16日に日本に来ました。

最初は島根県松江市で1カ月間、日本語の勉強をしました。松江市にある「しまね国際研修館」で日本人の先生方に日本語を教えてくださいました。日本語の勉強はとても難しかったです。日本語の発音、ひらがなとカタカナなどを覚えるためにカセットをよく聞いていましたが、なかなか覚えられませんでした。眠れなかった日もありました。

毎日、新しい言葉、文法を習いました。全く違う国の言葉を勉強するのが大変でしたが、日本語は面白かったです。あまりにも慣れない私に日本語を教えてくださいました先生方に大変感動しております。私は初めて日本に来て、日本語も始めて勉強しました。何でも初めての経験で、楽しかったです。

松江市では自転車があり、行くところも沢山あって本当に楽しかったです。ゴミ箱があるきれいな町で、本当に感激しました。リサイクル工場も見学しました。とても面白かったです。

モンゴルではリサイクルの工場がないので、モンゴルにも出来たらいいと思いました。モンゴル政府も2010年までにリサイクル工場を作ろうとしています。

松江市の美術館、松江城、日本海、フォーゲルパークに行き、日本茶道も体験しました。面白くて楽しかったです。

## (2) 農業大学校での研修

5月21日から8月21日まで倉吉市関金町の農業大学校で研修しました。一番長い期間の研修でした。農業大学校のF2ハウスでスイカとメロンの栽培のし方を主に研修しました。

関金町の土は山地の土が多くて、湿り気の土壌で樹葉植物の多いところでした。モンゴルの北側、セレンゲ、ヘンティー県の森林地方の土と同じでした。

農業大学校でのスイカは一種の品種でした。F2ハウスと露地での小さいハウスに分けて栽培していました。私は、毎日学生達の研修が始まる前に計る温度をメモして変化を比べて見ました。

また、わき目を取ったり、灌水をしたり、雑草を取ったりして、露地でのスイカとハウスでのスイカを比べて見ました。

残念ながら、スイカの収穫は出来ませんでした。雨の水分、土壌の余分な窒素、ハウスの温度、葉っぱをアブラムシが悪くしたこと、雲の網など、様々な影響でスイカが大きすぎて味が変わってしまいました。糖度が低かったです。

幸い、メロンの収穫は良かったです。

ほかには、研修期間中に4種のトマト、3種のメロン、小松菜、ホウレン草、ジャガイモ、インゲン豆、タマネギ、ナス、ニンジン、キャベツ、チンゲンサイ、イチゴ、サツマイモ、米を栽培しているのを見ました。これらの野菜の栽培方法を少しでも研修できたことは嬉しいです。また、収穫した野菜を供給しにお店に行きました。その時、様々なことを見ることができて、先生方に野菜と果物の実る期間を聞いたりしました。

5月に農業大学に来た時、ホウレン草を収穫していました。8月、ホウレン草と小松菜を収穫して、農業大学での研修が終わりました。ホウレン草を2回、小松菜を1回栽培しました。

農業大学校で、中玉トマトのわき目を取る、葉っぱを取る、収穫などをしました。他に、中玉トマトをきれいなトマトと傷のトマトに分けて315グラム、250グラムで箱に入れて販売の準備もしました。

農業大学校の先生方、学生達がとても親切でした。感謝しています。また、皆で研修旅行に行って、イチゴの苗を作ったり、ピーマンのハウスを見学したり、世話をしたり、土の中の貯蔵庫を見ました。海の動物の小さい水族館や山の滝など見ました。また、海に始めて入ってみました。とても楽しかったです。

研修期間、大変お世話になった福本先生、山崎先生、森本先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

### (3) 園芸試験場での研修

8月21日から9月1日まで、園芸試験場日南試験地で研修しました。

ピーマンを収穫しました。白菜の苗をしました。トマトとネギを分けることを研修しました。短い期間でしたが、一番印象的なところでした。小林先生をはじめ、他の職員の皆さんに大変感謝しております。

その時は、富田さんのお家でホームステイさせていただきました。とても優しくかったです。日本のお母さんが毎日違う料理を作ってくださいました。日本のお家にもホームステイも出来たし、毎日、おいしい和食を食べていました。料理を作るとき、様々な種類の野菜を入れていたのを見ても、私にとっては、素晴らしい勉強になったと思います。食事には、困ることが全然なくて全部おいしかったです。

9月1日から9月12日まで園芸試験場弓浜砂丘地分場で研修しました。

園芸試験場の土は海の波から出来たから構成がとても珍しかったです。モンゴルのゴビ砂漠の土とは全然違っていました。園芸試験場でネギ、サツマイモ、ニンジン、イチゴを主に栽培していました。園芸試験場で種まき、ネギの苗を作る、土壌を作る、苗の土壌を作るなど様々の研修をしてとても楽しかったです。

その時、教科書や写真などを見せながら一生懸命説明してくださった鹿島先生や他の先生方に感謝しております。

9月12日から9月19日まで大栄町の園芸試験場本場で研修しました。研修期間、お世話になった皆さんに大変感謝しております。

長く感じていましたが、とても速かった6ヶ月間の研修を無事に終えることが出来てとても嬉しいです。これからも鳥取県と中央県の交流が益々発展しますようお祈りしております。



農業大学校でのスイカ栽培



農業大学校の皆さんと



ホストファミリーの富田夫妻と一緒に



園芸試験場でのネギの収穫



自治体職員協力交流研修員  
(中国吉林省、河北省)

## 1. 研修員プロフィール



氏 名 李 艳苹 (リ イェンピン)  
 年 齢 41歳  
 国 籍 中 国  
 出 身 吉林省長春市  
 研修分野 商工行政

## 2. 研修機関の概要

機関名 鳥取県商工労働部 鳥取市東町一丁目220  
 代表者 鳥取県商工労働部長 山口 祥義  
 指導者 鳥取県商工労働部経済交流課課長 前田 修

## 3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2005. 5. 22	来日（成田空港到着）
5. 23	開会式、オリエンテーション（東京都内、25日まで）
5. 24	国会議事堂を見学
5. 26	日本語研修、日本文化研修等を開始（全国市町村国際文化研修所・滋賀県大津市、6月23日まで）
5. 28	琵琶湖博物館を見学、石山寺、宗陶苑を見学。陶芸を体験。
6. 7	「国際結婚」について、京都大学でアンケートを実施
6. 10	日本の伝統劇「狂言」を鑑賞
6. 11	京都市内（金閣寺、清水寺、二条城）を観光
6. 24	しまね国際研修館（鳥根県松江市）での日本語研修を開始（7月29日まで）
6. 29	松江市のリサイクルプラザ「くりんぴーす」を見学
7. 2	安部栄四郎記念館を見学。ホームステイ（3日まで）
7. 5	島根文化（安来節）の体験
7. 7	七夕の行事を体験
7. 29	来県。研修員・県費留学生合同歓迎会（鳥取市内）
8. 1	県庁での研修開始。国際課、商工労働部各課、鳥取県国際交流財団にあいさつ

8. 3	商工労働部内部研修会「鳥取県の設備投資動向」に参加
8. 4	副知事を表敬訪問
8. 5	ジェットロ鳥取を訪問
8. 8	県政の概要説明を聴く（9日まで）
8. 16	第41回しゃんしゃん祭県庁連に参加
8. 19	海外日本食市場セミナー&相談会（県立図書館）に参加
8. 22	商工労働部各課事業の概要説明を聴く（30日まで）
8. 23	新製品・新技術売込みプレゼンテーションに参加
8. 25	鳥取県産業振興機構と産業技術センターを訪問
8. 27	鳥取県の観光地を視察
8. 30	産業連関表活用セミナー（県立図書館）に参加
8. 31	第11回環日本海拠点都市会議（夢みなとタワー）に参加
9. 6	鳥取県の人事管理について説明を聴く
9. 7	県内情報産業企業訪問会に参加（9日まで）
9. 13	鳥取県信用保証協会を訪問
9. 15	職員応急手当講習に参加
9. 20	鳥取県国際交流財団主催の研修旅行で東京方面へ（21日まで）
9. 27	境港貿易振興会、FAZ支援センター、境港管理組合、食品開発研究所、機械素材研究所を訪問
9. 29	県議会の概要説明、県議会傍聴
10. 4	鳥取県中小企業団体中央会訪問、鳥取県立博物館見学、鳥取商工会議所を訪問
10. 5	鳥取県国際交流財団主催「TOTTORIナイト」に参加。しゃんしゃん傘踊りと貝殻節を踊る
10. 9	東アジア弦楽器コンサート訪問団随員（14日まで）
10. 17	自治体国際化協会の中間研修（東京都内、18日まで）
10. 18	中国吉林省総工会訪日代表団歓迎会に参加
10. 21	産業技術フェアを視察
10. 27	中国・四国海外技術研修員合同交流事業に参加（広島県広島市、28日まで）
11. 2	鳥取三洋電機を訪問
11. 4	外国人研修生受入企業を訪問（鳥取精巧、ケイケイ、アダルト）
11. 16	倉吉高等技術専門校を訪問。燕趙園の見学
11. 17	県庁の公用車管理システムについて説明を聴く
11. 22	商工労働部中国水餃子教室に講師として参加

11. 24	女性企業レディース研修会に参加
12. 1	とっとり政策総合研究センターを訪問
12. 8	栽培漁業センターを訪問
12. 19	人権研修（「人権侵害救済推進・手続き条例」説明）に参加 トヨタ自動車工場、アサヒビール名古屋工場、キューピーマヨネーズ挙母工場を見学（21日まで）
2006. 1. 11	因州和紙展を見学（県立博物館）
1. 12	（株）サカモトを訪問
1. 19	日本の伝統芸能体験（狂言を鑑賞）
1. 27	中井酒造を見学（日本酒の仕込み）
1. 30	経済交流課商業流通係の業務説明を聴く
2. 1	月星アート工業、カルフル、天神橋筋商店街（尼崎、大阪）を見学する（2日まで）
2. 13	ビジネス支援講座（県立図書館）
2. 16	F T Z、那覇港、牧氏公設市場、（株）沖縄黒糖工場、むら咲むら、瑞泉酒造視察など（沖縄、18日まで）
2. 22	経営支援発表大会に参加
3. 17	研修修了式・送別会に出席。研修成果を発表
3. 20	副知事に帰国前あいさつ
3. 22	離県
3. 23	関西空港より帰国

## 5. 研修報告

### はじめに

鳥取県と吉林省が交流しているおかげで、2005年度に自治体協力交流研修員として鳥取県庁で研修をすることができました。2005年5月22日の来日以来、10カ月間の研修の中で主に商工行政について沢山の知識を身につけました。滞在期間中、関係者の皆さんに色々お世話になり、研修生活はとても楽しく充実していました。本当にありがとうございました。

10カ月の研修は主に三つの部分に分けられます。第一部分は研修員全員が東京に集まったのオリエンテーションです。第二部分は語学研修です。それは5月25日から6月23日までの全国市町村国際文化研修所（J I A M）での日本語研修、及び6月24日から7月29日までのしまね国際研修館での日本語研修です。第三部分は鳥取県商工労働部経済交流課での専門研修です。

## 1 東京研修

5月22日に東京へ来ました。滞在期間は三日間だけですが、沢山のことをしました。例えば、日本での研修日程説明、生活と仕事上で注意すべきことの説明、日本語レベルチェック、日本の地方自治とその現状の紹介（地方財政制度、地方自治体制度）、受入団体担当者との面談、歓迎レセプション、国会議事堂見学など色々なことを行いました。研修内容はすき間なく詰まっているが、秩序正しく組まれていたと言えます。日本社会のリズムの速さと効率のよさを感じさせられました。これは日本に来て最初に持ったイメージでした。

## 2 語学研修

5月24日から7月29日まで、それぞれJ I A Mとしまね国際研修館で語学研修をしました。中学時代から日本語を勉強したことがあり、本を読むことができますし、日本語から中国語に翻訳することもできます。かつて10編くらい日本語のレポートを翻訳して専門誌に掲載されました。でも、長春経済技術開発区に転職してから、仕事ではほとんど日本語を使いませんでした。その上、日本語の専門ではなかったため、だんだん忘れてしまいました。来日研修のおかげで、改めて日本語が勉強できてとても嬉しかったです。2カ月間、毎日日本語のみ集中的に勉強していたため、忘れた単語などをだんだん思い出して来ました。特にしまね国際研修館での語学研修を通じて、ヒアリングと会話力がある程度向上しました。

その語学研修を進めていくと同時に、日本の行政管理体制や、伝統文化や、生活習慣など色々な知識を研修で学びました。例えば、J I A Mでは「日本の地方自治制度」を講義していただきました。それを通じて日本の地方自治制度が大体分かりました。日本の伝統文化の理解のために色々な研修を行いました。名所旧跡へ見学に行ったり、伝統芸能を見たり、伝統工芸品を手作りしました。例えば、琵琶湖博物館を見学し、石山寺を観光し、宗陶苑を見学し、京都大学にアンケートを行い、京都市内の金閣寺、清水寺、二条城などを見学し、安部栄四郎記念館を見学しました。「狂言」を見て、島根県の安来節の安来踊りを踊って、七夕の行事なども体験させていただきました。陶器を手作りし、そばを打ち、和紙をすくことなどを体験させていただきました。それとともに、日本の日常生活の中で衣食住と交通、礼儀作法、及び日本の大切な祝祭日などを学ばせていただきました。

2カ月間の語学研修及びその他の研修を通じて、日本語のレベルが向上するだけでなく、日本の社会と日本人について深く理解できました。彼らは人に親切にし、仕事に真面目に取り組み、質素に生活し、お互いに協力しているのだと思います。私は彼らの持つ優れた品性に感動しました。彼らを手本にして一所懸命に勉強するつもりです。以

上のあらゆる体験は以後の専門研修を順調に行うため、十分な語学力と思想的な準備をするのに役立つと思いました。

### 3 専門研修

日本は世界で有名な工業が発達している国です、最新技術を持っている企業は沢山あります。中国での私の勤め先は長春経済技術開発区で、その主な任務は、外国で進んでいる技術を持っている企業を誘致することです。仕事の分野の要求に応じて、鳥取県の研修では沢山の有名な企業や研究機関を訪問し、経済政策や中小企業支援のやり方を勉強し、そのほか商工行政に関係があることを勉強しました。

#### (1) 企業訪問と見学

##### ① 県内企業訪問

2005年9月7～9日に、情報産業企業訪問会の参加者として鳥取県内の15社の企業を順番に訪問しました。その15社の企業は(株)アクシス、ソنز(株)、中央印刷(株)、(株)ハイテクノ、(株)モリックスジャパン、鳥取県情報センター、(株)ソフィア鳥取支店、鳥取大学VBL、セコム山陰(株)鳥取営業所(セキュアデータセンター鳥取)、(有)エコシステムクリエイター、(株)愛進堂、(株)コンピューターサービス、(株)日本マイクロシステム、東亜ソフトウェア(株)、(株)エッグでした。また、食品加工企業の中井酒造を見学したり、木材加工企業のサカモトを訪問したり、中国研修生受入企業を訪問したりしました。世界でとても有名な、電気製品を作る企業一鳥取三洋電機株式会社も訪問しました。鳥取県で色々な企業を見学、訪問することを通じて、鳥取県のハイテク企業を大体理解しました。それらは進んでいるソフト開発企業、研究製作のコンピューターと携帯電話の部品を作る企業、高度な技術で服をデザインする企業、及び高度な技術で印刷を行う企業などとても素晴らしいものでした。どの企業も私達にとって勉強する値打ちがあります。

特に話したいことは、鳥取三洋電機株式会社のサービスがとても素晴らしいということです。50平方メートルの部屋で、25人ほどで顧客の電話対応をしています。しかも一人ずつ目の前に小さな鏡を置いて、顧客と電話する時、自分の表情が悪くならないように注意をしながら話をしています。そのような優れたサービス体制はさらに勉強する値打ちがあると思います。

##### ② 県外企業訪問

日本の進んでいる技術を私達に多く理解させるために、鳥取県国際交流財団と経済交流課は色々な県外研修を手配してくれました。世界的に有名な企業の工場を見学しまし

た。麒麟ビール横浜工場の見学、広島でマツダミュージアムの見学、名古屋で世界の工場—トヨタの見学、アサヒビール名古屋工場の見学、キューピー工場の見学、神戸で月星アート工業（株）の見学などを行いました。また日本の商業の状況を理解するために、尼崎市のカルフルニ崎店と大阪の天神橋筋商店街へ見学に行きました。これらの工場やスーパーマーケット等を見学して、日本の発達している工業や、盛んな商業などが大体分かりました。

なかでも、私はトヨタに親しみを感じています。その理由はトヨタと中国第一自動車集団が協力して作った「長春一汽豊田発動機有限公司」が私の勤め先長春経済技術開発区にあるからです。だから2005年12月20日にはわざわざ名古屋のトヨタに見学に行きました。私達はまず車の展示場を見学しました。それから解説員さんに連れられてバスに乗って、高岡工場の組立作業場と溶接作業場に現地見学に行きました。途中、解説員さんは見学者達に詳しくトヨタの歴史、現状、及び将来の発展方向を紹介してくれました。

トヨタ自動車工業（株）は1937年に設立されました。1938年に高岡工場が操業を開始しました。今まで69年の歴史を持っています。その期間に急速に発展を遂げました。国内では15の工場を建てているだけでなく、海外の26カ国・地域で51の関連会社が建てられています。アジア、オセアニア、北米、中南米、欧州、アフリカなど六つの大陸に生産拠点が建てられています。まさに世界の工場です。

また、それに加えてトヨタ自動車工場の自動化はとても素晴らしいと思います。最も話したいことは溶接作業場のことです。その中では1000台のロボットがボディータイプに応じて溶接をしていました。約1分間で一個のボディーの溶接が終わりました。とても速かったです。本当に完全な自動化工場です。確かに「百聞は一見にしかず」だと思います。私はそれにとっても感心しました。

そのほか、高岡工場の環境はとても綺麗だと思いました。廃棄するものは全て分別して捨てて、できるだけリサイクルに努めていました。本当に花園(はなぞの)のような工場だと思いました。

トヨタは現代の世界の工場として確かにその名に背かない工場を持っていると思いました。それに比べると、中国の工場の自動化はやはり引き続き努力しなければならぬと思いました。

## （２）研究機関の訪問

最新技術が生まれる場所はもちろん研究機関です。それは生産力が増え発展するための牽引車であると思います。そこで、色々な技術研究センターを訪問しました。例えば、鳥取県産業技術センター訪問、鳥取大学VBL等見学、鳥取県のさいばい漁業センター訪問などを行いました。

鳥取県産業技術センター（食品開発研究所〈境港庁舎〉と機械素材研究所〈米子庁舎〉を含む）は地域産業の発展を目指して、21世紀の活力ある技術力の向上を使命とし、鳥取県産業の発展のため、常に新たな研究開発と技術育成に努めています。産業技術センターの機能は、研究開発機能（産学官共同研究）、依頼試験機能、人材育成機能（研究開発人材）、技術相談・技術指導、事業家支援機能（試作支援、インキュベート）などがあります。そこで開発した最新製品は圧縮処理した杉材、かに殻から作られたキッチン・キットサン、微小な電子・電気機器部品など、沢山あります。また、純米と果物で作ったお酒がとても美味しかったです。

ここでは、研究開発の成果は直接企業と繋がり、すぐに生産力に転化されます。特に起業する人に無償の技術、研究場所、研究設備などの援助を行っています。平成17年までに自立型企業を目指した企業の技術者、研究者の育成参加数は73社もあります。

鳥取大学研究所で開発しているコンピューターで使う電球はとてもすばらしいと思います。寿命が長く10万回点滅します。また、同所が開発したレーザー技術は日本でも一番だと思えます。

鳥取県商工労働部産業技術センター等の見学を通じて、鳥取県の進んでいる技術にびっくりさせられました。また、鳥取県の中小企業者に支援をしている方に、感心させられました。それらは確かに私達にとって勉強する値打ちがあると思えます。

### （3）経済政策の研修

それは私の専門と言われています。ですから、それに大きな興味を持ってとっとり政策総合研究センターに訪問に行きました。

とっとり政策総合研究センターの任務は、幅広い視野と長期的展望に立った政策、施策に関する調査研究及び提言を行うとともに、各種の情報収集、分析及び提供を行い、鳥取県の健全な発展と県民生活の向上に寄与することを目的とします。

主な活動は①総合的な政策・施策に関する調査研究②研究成果の公表と各種情報の収集と提供③フォーラム等の開催④国際研究交流活動⑤政策研究人材育成⑥地域文化研究活動——などです。訪問の日、私達は環日本海地域の経済活動の現状や、県内企業の中国東北への進出の可能性や、中国企業の今後の発展の可能性などの問題について話し合いました。センターの研究者は中国の外資誘致の優遇政策や、中国が地方のことは地方の自主的取組みに任せていることなどの点について、日本が逆に中国から学ぶべき点があることを認めていると述べました。

その訪問を通じて、私達は環日本海地域の経済活動について他にも色々な問題があり、短い時間内に解決することはできないと思いました。現在、北東アジア諸国が共同で努力しています。環日本海地域諸国の経済協力が一日も早く進むことを望んでいます。

#### (4) 中小企業支援についての研修

鳥取県では中小企業の支援の方法が完備されていると言えます。専門の管理組織を設置するだけでなく、また技術開発、設備、技術力、人材の育成、資本金、販路の開拓など色々な方面で支援をしており、完璧なシステムを形成しているということです。

##### ①専門組織での管理

財団法人鳥取県産業振興機構は鳥取県内の中小企業を支援している重要な組織だと思っています。このことは同機構の任務の中に見られます。その任務は次のように規定されています。「依然として厳しい経済情勢に配慮し、新産業の創出及び経営革新により、地域経済の再生、活性化を推進するため、次の仕事をする事です。①企業化の支援②人材育成の支援③販路開拓の支援④賛助会員の支援——です。その他、起業家、ベンチャー企業の新事業の立案から実施、評価、フォローアップに至る一貫したサポートシステムを用いて事業化へ指導・助言を行っています。また、企業の産業財産権（特許・実用新案・意匠・商標）の取得・活用、新製品開発、企業の持つ技術力の向上等の支援を行っています」。ですから、それを専門の管理機構というのは分に過ぎないと思います。

##### ②団体組合での支援

鳥取県の中小企業団体中央会と鳥取商工会議所は商工業に関する団体です。主に、いろいろな組合及び企業に、情報の提供を通じて支援します。例えば、鳥取県中小企業団体中央会は、主なサービスの対象が中小企業協同組合、商工組合、商工組合連合会などで大多数は企業と企業の連合です。主な任務は中小規模の商業、工業、鉱業、運送業、サービス業その他の事業を行う者の経済的地位の向上を図る事です。そのほか金融・税制や労働問題など中小企業の経営についてもいつでも相談に応じています。また、組合のために活路開拓調査・現実化事業、情報化対策事業、研修会、個別専門指導などの各種指導・助成事業を行っています。組合の希望は、中央会を通じて地方公共団体や国の施策に反映することができます。

鳥取県商工会議所は「地区内における商工業の総合的な改善発達を図り、併せて社会一般の福祉の増進に資すること」と定められている通り、地区内の会員である商工業者の意見・要望を取り入れながら、行政機関や各種経済団体などと連携し、経済界の立場から“魅力ある鳥取”を目指して各種の事業を展開しています。鳥取県商工会議所は「交流」と「連携」をキーワードに経済界の立場から諸課題に全力で取り組んでいます。サービスの相手は、一つ一つの企業です。どちらの団体もサービスを提供する時は、大抵のものが無料です。それらの支援は大抵声援の範囲に属すると思います。

### ③無償の技術援助の供与

鳥取県商工労働部産業技術センター（食品開発研究所〈境港庁舎〉と機械素材研究所〈米子庁舎〉を含む）は企業を創る人に対して無償の技術、研究場所、研究設備などの支援を供与しています。それとともに研究者たちは企業を創る人と一緒に研究して成果も無償で供与しています。このやり方は、お金を沢山持たない人にとっては大きな援助になるといえます。同時に中小企業の早期育成に大変役立つと思います。

### ④資金援助による支援

鳥取県の信用保証協会は中小企業者等のために信用保証の業務を行い、これらの者に対する金融の円滑化を図ることを目的としています。

信用保証協会の役割は、中小企業者等の方々が金融機関から事業資金の融資を受ける際に、公的な保証人となって金融の円滑化に努めるとともに、相談、診断、情報提供といった多様なニーズに応じて中小企業の経営基盤の強化に寄与する専門機関です。

信用保証協会の主な業務は、①中小企業者等が銀行その他の金融機関から資金の貸付、手形の割引を受けること等により金融機関に対して負担する債務の保証②中小企業者等が発行する社債（私募によるものに限る）のうち、銀行その他の金融機関が引き受けるものに係る債務の保証③上記の業務に付随し、信用保証協会の目的を達するために必要な業務——です。この機構のそのような役割によって、起業者は資金面で支援を受けることができます。

### ⑤人材育成の援助

鳥取県には専門職業訓練学校が三つあります。そのうち一つは国立で、二つは県立です。倉吉高等技術専門校は鳥取県立の専門職業訓練学校の一つです。科目は、コンピューター制御科、土木システム科、OAシステム科、建築科などがあります。コースは三種類があり、普通課程、短期課程、在職者訓練があります。主な目的は、生徒達の職業能力を開発して、再就職してもらうことです。生徒達は学費が不要です。これは企業のために人材を育成している一種のやり方だと思います。

これらを見ると、鳥取県が中小企業に対して強力な支援をしているということが分かります。その完備された管理体制、無料サービスを創出するやり方、資金を援助する方法、及び人材を育成のやり方などは、吉林省も勉強する値打ちがあるかもしれません。そうすれば、吉林省の中小企業は大きく発展することになると思います。

## （５）行政管理の研修

商工行政の重要な研修内容として多く勉強しました。主に県政概要、県議会概要（県議会傍聴）、商工労働部概要、人事管理、公用車の管理、「人権侵害救済推進・手続き条

例」などを勉強しました。また、境港貿易振興会、境港貿易センター、境港F A Z支援センター、境港管理組合などの組織に訪問しました。

県政概要と県議会概要（県議会傍聴）の勉強を通じて、鳥取県の政治体制、政権の構成や形式、行政管理体制、政策決定方式、及び自然、人文、歴史、風物、国内の地位、国際間交流等の状況を大体知ることができました。

商工労働部各課事業概要の勉強を通じて、商工労働部各課の機能や、行政の権限などが分かりました。特に印象に残った事業は、中核的ベンチャー企業育成支援事業です。ベンチャーを通じて、新しい技術が生まれますが、最新技術を生み出すことは、企業の発展に対して大切なことです。そして企業の発展は、国の経済の発展の巨大な推進力となり、経済の繁栄をもたらします。同時に、就職者も増えて、社会も穏やかになります。このやり方は、確かに私たちにも参考になると思います。

人事管理と公用車の管理はとても素晴らしいと思います。知識を広めるために、三年おきぐらいに公務員は異動をします（しかし、特別技能を持っている専門人材は異動しない）。腐敗を防止するために、重要部門の公務員は必ず三年ごとに異動させます。例えば、財務管理をする職員と環境管理の職員は三年ごとに異動させます。土地管理をする職員は五年ごとに異動させます。また外国人も鳥取県の公務員試験を受けることができ、受かった人は鳥取県の公務員になります。これは、国際交流をうまく進めるのに役立つと思います。

公用車を私的に使用するのは、少なくとも私の勤め先ではたまにあることです。それが私達も普通なことだと思っています。では、鳥取県ではそのような現象はないのだろうか。この疑問を持って管財課を訪問しました。訪問の結果に私はびっくりし、感心しました。県庁で勤務する人々は知事から普通の職員まで一人も公用車を私的に使用しません。その局面ができる理由は二つあると思います。一つは、民衆の監督と政府の厳格な規定や制度の執行が大切な役割を果たしています。誰でも誤ることをしたら罰を受けるとしています。もう一つは、公務員は大部分の人が自分の車を持っていて、公用車を私的に使うという危険を冒す必要はないと思います。もちろん、公務員の自制心が強く、意識も高いことなどの可能性ももちろんあると思います。たぶん「民衆は生活が豊かになると、教養も高くなる」ということでしょう。

そのほか、境港貿易振興会、境港貿易センター、F A Z支援センター、境港管理組合などの組織の訪問を通じて、企業をサポートし航路を開設すること、境港貿易センターのF A Z支援施設、境港における取扱貨物量と定期コンテナ貨物量、貿易・投資に関する情報提供やアドバイザーによる個別相談、及び境港が鳥取と島根両県によって管理されていることなどを学びました。その訪問の中で、大切なニュースを聞きました。それは中国吉林省の企業が北朝鮮羅先市の港湾に約三千万ユーロ（約四十億円）を投資することで同市と合意し、港湾施設、道路の五十年間の使用権を獲得したというニュースです。これは吉林省と境港の間の輸送距離を大きく短縮することになります。羅先と境港

は433海里しかありません。港湾が完成すれば、境港の発展はきわめて大きく進んでいくと思います。

行政管理の研修を通じて、鳥取県の自然環境、人文環境、優れた行政管理体制とメカニズムに感心しました。それらは私達にとって勉強の価値があります。

#### (6) 会議、セミナーと展示会に参加

沢山の知識を得るために、色々な会議、セミナー、展示会に出席しました。これまで第11回環日本海拠点都市会議（夢みなとタワー）、海外日本食市場セミナー&相談会（県立図書館）、産業関連表活用セミナー（県立図書館）、鳥取産業技術フェア、女性企業レディース研修会及び因州和紙展などに参加しました。それらの体験を通じて、確実に沢山の経済に関する知識を身につけました。その中で私の頭の中に深くイメージが残っているのは、片山知事の演説です。

第11回環日本海拠点都市会議での片山知事の「北東アジアの将来と地域の課題」の演説がとてもすばらしいと思いました。知事は教育問題の認識を始め、四つの方面の問題について順に話しました。知事は、中日韓ロシア四ヶ国の研究機関の協力交流、図書資料の交流、音楽芸術の交流、及び鳥取県庁でIT行政を行うことについて、詳しく解説しました。しかも「芸術には国境が無い」という名言を論拠として、音楽芸術の交流を通じて各国間の理解を深め、その上に経済の協力を強めることになるということを論議しました。何度も四ヶ国間の協力交流の重要性を強調しました。知事の提案は会議参加者が一致して賛成しました。私も例外ではなかったです。私も心から日本海を介し各国の協力が日に日によくなることを望みます。

#### (7) 中間研修と研修旅行

鳥取に来てから、自治体国際化協会（CLAIR）主催のものと中四国研修員合同交流事業の二度中間研修に参加しました。また鳥取県国際交流財団が主催の研修旅行にも参加しました。

##### ①東京の中間研修

2005年10月17～18日、CLAIRの主催により、協力交流事業参加国の研修員全員は東京に集まって中間研修を行いました。その目的は、一方は研修員達に研修成果を報告させ、お互いに交流を強めさせ、一方は皆が集まって感情の交流をし、ホームシックを減らすことだと思います。これはとても優しいことだと思います。グループの会議で自己の研修成果を報告しました。同時に、日本地方政府の中小企業への支援策について、また博物館の発展について、討論しました。皆の発表を聞いてから、沢山の

感想が生じました。発展中の国が、進んでいる国によく学べば自身の発展も早いだろうと思いました。その後、江戸博物館と浅草に見学に行きました。江戸博物館の見学を通じて、東京都の歴史が大体分かりました。

### ②中四国研修員合同交流事業に参加

2005年10月27～28日、鳥取県国際交流財団担当者に連れられて、中四国研修員合同交流事業に参加しました。意見交換会を行いました。鳥取県で研修を受けてよかったと思うこととして、鳥取県の行政管理体制とメカニズムがよいことです。部門間の運営がうまくいき、仕事の効率がよいこと、公用車の管理方法も勉強する値打ちがあることなどを発表しました。研修期間に、私達はマツダミュージアムと平和記念公園及び世界遺産の厳島神社等を見学しました。マツダミュージアムの見学を通じて、車を作る技術が進んでいることを実感しました。平和記念公園の見学を通じて、平和を守るのは大切なことだと思いました。厳島神社は千年以上の歴史を持っています。日本の宗教の生きた教科書だと思います。その建築のスタイルは独特で、環境も美しいです。確かによい観光地です。

### ③研修旅行

2005年9月20～21日、鳥取県国際交流財団の担当者に連れられて、東京に見学に行きました。東京タワーの見学、両国国技館で大相撲観戦、フジテレビ（球体展望室）見学、お台場見学、キリンビール横浜工場見学などを行いました。

東京タワーは世界的に有名です。高さは333メートルで、世界で一番高い、鉄で作ったタワーです。タワーに登ると、東京のいろいろな高い建物は全て下になり、タワー周囲の景色が全て見えました。特に遠いところを眺めると、気持ちがとてもよくなりました。その後、蠟人形館に入って見物し、日本の独特なお相撲を見物に行きました。元々はお相撲が嫌でしたが、現地で見学してからだんだん好きになりました。また、日本の大切な放送局であるフジテレビに見学に行きました。東京の見学を通じて日本の文化などにますます親しみを感じました。

私達は日本で歴史が長く有名なキリンビール工場に見学しに行きました。その工場は明治三年にアメリカ人によって建てられました。それは日本が西洋に向かって開放するのに伴って生まれたと思いました。120年間余りにわたって発展するのは、まさに日本の開放が成功したことを証明しています。

中間研修と研修旅行を通じて、研修員達は研修成果を分かち合えました。それとともに知識の幅も広がりました。いろいろな見学を通じて、日本の社会歴史の発展過程、宗教の発展過程、現代工業の発展過程などが、大体分かりました。特に広島平和記念公園の見学を通じ、平和を守ることについてもっと冷静に認識できました。

## (8) 色々な文化体験

日本での研修の全過程を振り替ってみると、文化体験は始終伴っていたと言えます。最初の2カ月間の日本語研修の中で沢山の文化体験をしたことについては話しました。鳥取県庁に来てから、専門研修をするとともに、色々な文化活動を体験しました。忘れ難いしゃんしゃん祭に参加し、愉快的鳥取砂丘などの名所の旅に行ったり、「TOTTORI ナイト」国際交流活動に参加し、東アジア弦楽器コンサート訪問団に随行し、博物館の見学をし、雨中で燕趙園を観光し、広島平和記念公園を見学し、お相撲を見物し、東京タワーに登り、「狂言」を見、和紙展を見学しました……。

まさに色々な文化体験をして日本に対する認識がますます深くなりました。もとの「知らない」から「よく知っている」になり、もとの「嫌」から「理解」になり、色々な感想が生じていって、筆の先に流れてメールマガジンになりました。それらは全て私の実情が流れていると思います。それらは紙に残るだけではなく、もっと頭に深く刻まれ、いつまでも忘れないと思います。

## 4 研修の収穫

10カ月の研修を通じて、沢山の知識を身につけました。収穫は多いです。優れた政策決定体制と行政管理体制、高効率で順調なメカニズム、及び企業に対する優れたサービスのやり方などは、あらゆるものが私達の勉強する値打ちのあるものです。

最大の収穫は私が日本人の科学、真面目な精神を見つけたことです。皆さんご存知のとおり、人は社会の主体ですから、人は社会の進歩を決定する役割を果たしています。だから、ここで私が知り合った日本人のイメージを話したいです。日本人は世界で最も勤勉、真面目、質素な人だと思います。

日本人は時間の観念が強いと思います。仕事の時間を守るために、たくさんの“日本式”を作りました。歩いても、仕事でも、食事さえも“日本式”ができました。彼らは仕事の時間を守るために、十分足らずの間に作ったばかりの熱いうどんを食べることができました。たぶん日本人はこのようにそれぞれの“日本式”を作ったので、日本は戦後の60年間に早く発展を遂げられて、世界で経済力の強い国になったのだらうと思います。

日本人は仕事に対して真面目だと思います。どんなことでも真面目に対応しています。しかも詳しく計画を立てています。遊びさえも詳しく計画を立てます。例えば、大山に登った時、私の担当者が詳しく計画を立てました。何時に集合、何時に出発、何時にどこに到着、何時に解散などがあります。その案内に従って行動すると、確かに整然として乱れがなかったです。外国の人々は常に「日本人の心が細かすぎだ」と批判の意味をもって話すことがあります。しかし、このような心の細かさを仕事の中に使うことは、

よい事ではないでしょうか。

日本人は世界で最も節約をする民族だと思います。省エネルギーは、世界で共通の課題です。しかし、日本人がするようにすでに全国民で共通の行動をする国は、世界各国ではあまり無いかもしれません。上から下まで、女性と子供も、皆が大切な事として頑張っています。まず、ごみの分類については、家でも、事務室でも、皆さんは同じようにごみを分けて捨てます。そのやり方はリサイクルしやすくするためです。次に、電気エネルギーを省く事は、ふだんの仕事でいつも見られました。たとえば、鳥取県庁の職員さんたちは、省エネルギーに対して強い意識を持っています。毎日、8時半にならなければ、電気とエアコンをつけません。昼休み時にも、電気を切ります。残業する時にもエアコンを切ります。彼らの自覚のある行動は私の心を深く感動させました。日本人の省エネルギーのやり方は、私たちにとって勉強する価値がたくさんあります。とくに彼らが持っている強い省エネルギーの意識は、私たちにとってもっと勉強する価値があると思います。

日本人はまさに科学、真面目な仕事精神、勤勉な節約精神、団結して向上する精神を持っていて、全世界の経済強国になっています。日本人が創造した奇跡は全世界で注目されていました。

日本人の持っている精神は、私達中華民族にとって勉強する値打ちがあるのではないのでしょうか。中国が振興するためには、一人ひとりの中国人がそれらの精神を持つことが必要だと思います。もし13億の中国人がその精神を持てば、中国は将来世界できっと強国になると思います。

## 終わりに

10カ月間の日本での研修生活は、世界を知り体験するのに一定の意義があったと言えます。人生の中で大切な学校だと思います。それは知識を身につけるだけでなく、更に思想と精神の、経験と鍛錬ができました。それらは人生で最も貴重な精神的な富だと思います。

日本での研修はまもなく終わりますが、滞在期間中色々お世話になった総務省、自治体国際化協会（CLAIR）、鳥取県の国際課、経済交流課、国際交流財団の皆様感謝を申し上げます。

別れるのは必然的なことです。しかし、ご縁があれば、私たちは必ず再び会うことができると思います。



経済交流課で研修中の李研修員



第41回しゃんしゃん祭で県庁連に参加

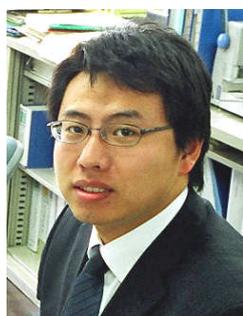


餃子パーティーを開催



とっとり政策総合研究センターを訪問

## 1. 研修員プロフィール



氏 名 張 碩 (チャン シュオ)  
 年 齢 26歳  
 国 籍 中 国  
 出 身 河北省保定市  
 研修分野 環境行政

## 2. 研修機関の概要

機関名	鳥取県生活環境部	鳥取市東町一丁目220
代表者	鳥取県生活環境部長	塚田 勝
指導者	鳥取県生活環境部環境政策課長	野間田 憲昭
	鳥取県生活環境部循環型社会推進課長	三木 文貴
	鳥取県生活環境部景観まちづくり課長	渡部 哲哉
	鳥取県生活環境部公園自然課長	畦崎 俊敬
	鳥取県生活環境部衛生環境研究所長	杉本 雅美

機関名	鳥取県農林水産部	鳥取市東町一丁目220
代表者	鳥取県農林水産部長	河原 正彦
指導者	鳥取県農林水産部農政課長	竹内 健
	鳥取県農林水産部畜産課長	鹿田 道夫

機関名	鳥取県県土整備部	鳥取市東町一丁目220
代表者	鳥取県県土整備部長	田所 正
指導者	鳥取県県土整備部企画防災課長	長谷川 具章

## 3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2005. 5. 22	来日 (成田空港到着)
5. 23	開会式、オリエンテーション (東京都内、25日まで)
5. 26	日本語研修、日本文化研修等を開始 (全国市町村国際文化研修所・滋賀県大津市、6月23日まで)
5. 28	琵琶湖博物館などを見学

6. 11	京都市内を観光
6. 24	しまね国際研修館（島根県松江市）で日本語研修を開始（7月29日まで）
7. 29	来県。研修員・県費留学生合同歓迎会（鳥取市内）
8. 1	県庁での研修開始
8. 3	米子市、松江市方面のアセス現場現地調査
8. 4	副知事を表敬訪問
8. 7	東郷池（湯梨浜町）でのドラゴンカヌーに参加
8. 9	燕趙園（湯梨浜町）を訪問
8. 16	第41回しゃんしゃん祭県庁連に参加。
8. 28	中海クルージングに参加。トリピー（着ぐるみ）に入る。
8. 31	旧衛生研究所ボーリング地下水の採水を見学
9. 20	鳥取県国際交流財団主催の研修旅行で東京方面へ（21日まで）
9. 26	「水素・燃料電池フォーラム」会議に参加（広島県広島市）
10. 5	鳥取県国際交流財団主催「TOTTORIナイト」に参加。しゃんしゃん傘踊りと貝殻節を踊る
10. 10	生涯学習フェスティバル（鳥取市）のイベントに参加
10. 11	全国環境教育会議に参加（倉吉市）
10. 17	自治体国際化協会の中間研修（東京都内、18日まで）
10. 27	中国・四国海外技術研修員合同交流事業に参加（広島市、28日まで）
11. 1	不法投棄監視カメラを見学
11. 8	県中部の一般廃棄物処理場と埋め立て場を見学
11. 17	中国地方環境影響評価会議に参加（岡山市、18日まで）
12. 15	エコプロダクツ2005を見学（東京都）
12. 22	県東部の牧場を見学
12. 26	智頭町の木材工場を見学
2006. 1. 17	ボーリング工事地下水の調査（智頭町、27日まで）
1. 19	日本の伝統芸能体験（狂言を鑑賞）
1. 26	鳥取市廃棄物焼却炉、一般粉塵発生施設の立入検査
2. 7	中国・四国地方湧水保全会議に参加（岡山市）
2. 16	E N E X 2006 第30回地球環境とエネルギーの調和展へ参加（大阪市）
3. 6	第三次環境基本計画（案）に関する地方ヒアリングに参加（岡山市）
3. 12	「北東アジア・アカデミックフォーラム2006 in 京都」に参加（京都大学、13日まで）

3. 20	副知事に帰国前あいさつ。
3. 17	研修修了式・送別会に出席。研修成果を発表
3. 22	離県
3. 23	関西空港より帰国

## 4. 研修報告

### 1 はじめに

現代、地球の健康は人類の一番重要な問題になってきましたが、特別に今経済が速く発展している中国では、経済発展とともに、環境問題もどんどん大きくなってきていますので、政府も公衆も環境保全に努力しています。世界の先進国と言われている日本は環境保全も先進的ですから、我が国は日本の先進的なことを習うべきだと思います。そうすることで、鳥取県での環境分野に関する研修はとても意義深いと思いますし、河北省と鳥取県の自治体協力の初めての研修員として、私自身にとってもすごく光栄だと思います。

10カ月間の研修の間、鳥取県で実施している様々な環境政策を学び、環境施設を見学し、環境セミナーなどのイベントに参加しながら、日本の先進的な環境理念や環境政策、環境保全の実態を感じました。例えば環境保全は、政府だけではなく国民、県民誰もが環境に情熱があって、自分から環境にやさしいことを積極的にしています。概して言えば、研修を通じて、確かに日本の環境保全は先進的だということを確認できましたし、自分の意識もより一層進歩したと思います。

### 2 専門研修

私が主に研修していたところは環境政策課です。このほか、循環型社会推進課、東部福祉保健局、鳥取衛生環境研究所、景観まちづくり課、畜産課、防災課、農政課等でも研修を受けました。私の要望によって、鳥取県はできるだけ多くの研修を実施して、私もできるだけ多く勉強させてもらいました。

#### (1) 環境立県戦略担当と鳥取県の環境施策の印象

8月から10月までずっと環境政策課の環境立県戦略担当で研修していました。最初に、この環境立県は、私にとって分かりにくい名称ですが、面白く、特色のある機構だと思います。ここが私の一番長い時間をかけた研修先です。初めに鳥取の環境に関わる大量の資料を読みました。その時はとても難しかったので、分かりにくかったです。で

も、環境立県担当の皆さんは親切に手伝って、教えてくれ、だんだん鳥取県の環境取組を理解し、環境政策が大体分かり、専門研修に安心し、慣れてきました。

鳥取県では平成12年、県庁が自ら率先してISO14001を認証取得し、「人と社会と自然との共生」というテーマで環境立県を掲げ、様々な独自の取組みを展開してきました。その後、日本唯一の環境専門大学である鳥取環境大学の開設や、独自の環境関連条例の制定、衛生環境研究所の開所等、徐々に基盤整備が進んできました。これから「県民との協働」をキーワードとする第二ステージにより、循環型社会の構築、地球環境問題への対応、次世代への自然環境の継承などの施策を実施します。

第一に県民の方々の協力を最も重視します。現在すでにとっとり環境ネットワークが設立され、このネットワークが環境保全と創造に関する活動を行う様々な団体や企業、個人が集まり、各々自主的な行動目標や行動計画等の情報交換、共に行動する者への参加呼びかけ等を行っています。

第二に県庁のISO14001と連動させ、PDCAにより進行管理を行います。そして17年2月に環境基本計画も改定し、中長期的な視野に立って、全ての主体の連携、協働による環境立県、循環型社会システムを実現、自然と人間との共生を確保、快適な環境、美しい景観の保全と創造、地球環境保全に向けた活動の推進と国際連携を内容とする2010年度目標を制定しました。この目標を推進するために、アクションプログラムの11施策を策定しました。すなわち、①二酸化炭素等温室効果ガスの削減②自然エネルギーの導入③一般廃棄物の排出抑制、リサイクル率の向上④産業廃棄物の減量、リサイクル率の向上⑤リサイクルビジネスの創出⑥三大湖沼の保全、再生⑦野生動植物の保護と生息環境の保全、再生⑧環境にやさしい農業の推進⑨森林の持つ多面的機能の向上⑩環境教育、学習の推進⑪環境配慮活動の推進——です。

## (2) 環境教育について

専門研修が始まった後、一番感心したことは日本の環境教育です。多種多様な教育活動を通じて、国民の環境意識を啓発し、育成して、皆一緒に環境保全に協力します。そういうことで、環境がすでに皆さんの貴重な財産になって、環境違法行為のあるところが全然なく、環境と経済の調和も実現できます。環境は国の、政府の環境だけではなく、国民皆の環境です。それで、国民の協力が大変重要なものだと思います。

日本の環境教育に感動したので、多くの環境教育に関する資料を読みました。勉強を通じて、日本の環境教育の取組みをよりよく理解しました。環境基本法において、国の基本的な政策として「環境の保全に関する教育、学習等」(法25条)「民間団体などの自発的な活動を促進するための措置」(法26条)について規定されています。環境教育は法律の保証があります。基本法のうわべの条文だけではなく、学校における環境教育を推進するための「学習指導要領」が昭和40年ごろに施行されていました。この学

習指導要領における環境教育に係わる主な内容は、学年と学科に基づいて、様々な環境知識を教えて、環境への理解を深め、環境を大切にすることを育成し、一人一人が環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育成することができるようにとされています。基本法以外、専門の環境教育の推進に関する法律の「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」も制定されました。この法律の基本的な方針は、環境教育などの実施に当たり重視すべき共通の考え方を明らかにしたことで、学校、地域、職場などの様々な場における環境教育の推進方策や人材育成、拠点整備のための具体的な施策などについて定められています。更にほかにも、場や機会の拡大、人材の育成、情報提供、普及啓発、国際協力などの分野においても定められています。

日本などの先進国より、中国では、環境教育についてまだ不十分で、日本のような多種多様な環境教育活動や手段も少なく、国民の環境意識の育成取組みの効果も良くないと思います。だから、行政を主とする環境保全も、なかなか目標が達成できません。国民の環境意識が高まって、全国的な環境になって、国民自身と環境とが一体になり、自分の宝物のように大切にすると、我々の環境が美しくなれると思います。

鳥取県では、環境基本法と国の環境基本計画に基づき、また、自らの具体的な行動計画「環境立県アクションプログラム」を通じて、様々な政策を行っています。例えば、環境省の「こどもエコクラブ」で安心して活動をしていただくため、県は登録者のスポーツ安全保険への加入料を負担しています。鳥取県のホームページ中の環境のページ「エコなび」に環境教育のページとして「鳥取県環境教育学習データベース」を掲載しています。県内で環境学習や体験ができる施設の情報やアドバイザー派遣制度の情報などを提供し、環境のイベント活動のお知らせ掲示板として利用も図っています。

### (3) 循環型社会について

これまで大量生産、大量消費、大量廃棄型の経済活動を続けてきた中国では、廃棄物や有害物質の環境への影響などが問題となるとともに、資源の枯渇も厳しくなっています。これは世界的な問題となりました。

近年の環境問題は、従来型の産業公害から地球的な規模の広がりを持ち、ダイオキシン、PCB、環境ホルモンなどの有害物質による長期的な環境への影響の問題や地球温暖化問題などとなっています。それで、循環型経済システム、循環型社会を形成して行くことが世界の持続的な発展のために不可欠です。中国では、今も「循環型社会を創造しよう」と呼びかけ、「集約的な発展」に切り替えることを努力しています。しかし、人の意識などによって、中国の循環型社会を作るのは、北欧諸国、日本などの先進国と比べて、まだかなり遅れているので、日本をモデルとして、よく検討すべきだと思います。中国のテレビ放送で日本のごみ処理の番組を見て、びっくりしました。その時、私

にとって、日本には、技術が先進ですから、廃棄物は全部リサイクルされると思います。鳥取県に来た後、専門研修を通じて、日本と鳥取県の廃棄物のリサイクルを含む循環型社会を作ることをより深く了解しました。

世界第二位の経済大国である日本の毎年の総資源投入量は約20.6億トンで、12.7億トンの生産物のために、3.5億トンのエネルギーを消費し、4億トンの廃棄物を出しています。循環して使用される再生資源は約2.8億トンと、総資源投入量の約1割強に過ぎません。21世紀において、持続的な発展を達成するために、従来の大量生産、大量消費、大量廃棄の経済システムからチェンジし、経済活力を十分に発揮することにより、日本はもう環境と経済が両立した新たな経済システムを構築することを行っています。日本では、平成3年に「再生資源利用促進法」の施行から、平成14年の「自動車リサイクル法」が制定されるまで、基本法とする「循環型社会形成推進基本法」と一般的な取組みの確立とする廃棄物の適正処理に関する「廃棄物処理法」とリサイクルの推進に関する「資源有効利用促進法」「容器包装リサイクル法」「家電リサイクル法」「食品リサイクル法」「建設リサイクル法」「自動車リサイクル法」「グリーン購入法」を含む個別物品の特性に応じた規制と循環型社会形成のための法体系が作成されました。これらの法制度により、現在、排出者責任の考え方のもと、廃棄物の発生減量（REDUCE）、部品などの再利用（REUSE）、使用済み製品などの原材料としての再利用（RECYCLE）の、いわゆる3Rの円滑な推進を図り、天然資源の投入の抑制と環境負荷を低減した取り組みを本格的に始めます。鳥取県では、廃棄物の発生抑制（REFUSE）をプラスして、3Rから4Rに増して、更に詳しくなっています。循環型社会をつくるためには、行政だけではなく、県民の積極的な協力を選びながら、市町村への助言や排出事業者に対する指導とともに、ゼロ・エミッション発動への支援などを積極的に行います。例えば「ごみリサイクル」ふれあいフェアの開催、エコショップの普及、マイバッグ運動の推進などです。一般廃棄物については、リサイクルの促進方策検討会議を中心に具体的な方策の検討を進め、各市町村などの合意形成を図りながら、体制整備、取り組み強化によって、「一般廃棄物のリサイクル率40%」を目指して減量化、リサイクルの推進を図っています。

#### （4）環境管理について

近年の環境問題は国際的な関心も高まってきました。従来の環境問題は煤煙や排水などによる地域的な問題が中心でしたが、今では、二酸化炭素等の排出による地球温暖化やフロンガスによるオゾン層破壊のような地球規模の環境破壊がクローズアップされるようになってきました。また、一般的な人たちにも積極的に環境保全に係わってくる人たちが増えてきました。人々は環境意識が高くなるにつれ、企業の環境問題への取組みに対する消費者の目はますます厳しくなり、商品の品質だけ満足しないが、企業は環

境に責任があれば、この企業は本当に消費者に責任を持ち、本当によい商品を生産できると思います。それで今の環境保全は最後の排出物の適正な処理だけではなく、すべての生産過程の科学的な管理を通じて、環境にやさしい生産を実現し、全面的に環境を保全することとなります。

日本の企業には長期に多発した公害問題を乗り越えてきた実績があります。また、もともと資源が少ないですから、様々な法の規制や企業の自主的な環境保全への取り組みが行われてきました。企業活動においては、原料調達や製造工程、製品使用、製品の廃棄などによって、環境に負荷を与えることが考えられます。これらの負荷を最低限に抑えるためのシステムが環境マネジメントシステムです。産業界では、環境への負荷を減らす努力をするとともに、環境保全活動そのものをビジネスにする企業が注目され始めました。環境ISO14001の普及とともに、環境ビジネスは急速に成長しています。それで環境ISOはひとつの新ビジネスチャンスを生み出しているといえます。例えば、環境保全施設や環境への負荷が少ない製品や環境に関するコンサルタントなどです。県庁を例として、「グリーン購入」を推進して、職員たちはエコマークが付いた環境にやさしいものを使用しています。たくさんビジネスができて、企業の発展の機会だと思います。

ISO9000シリーズが発行された当初は、日本企業は品質管理について自信があり、軽視していたところがあり、世界の趨勢と一致ではなく、欧米などの先進国と比べて遅れてしまい、たくさんの市場と機会を失いました。そういうことで、1996年9月にISO14000規格が正式に発行されて、日本政府はすぐISO14000を日本の工業規格としました。国でも地方でも、政府でも企業でも積極的に認証を受けるために努力して、一年間に500件以上登録され、取得件数をどんどん伸ばしています。鳥取県庁を例として、本庁はISO14001を認証取得し、全面的にISOシステムによって、日常的な仕事を行います。省エネルギーのため夏は冷房を28度、冬は暖房を17度に設定し、ごみは適正に分類し、資材を再利用して、本当にすばらしいと思いました。私の職場の環境保護局もISO14001認証を受けましたが、もっと徹底的に実施すべきだと思います。

鳥取県では、省資源、省エネルギーの推進事業活動に対する環境配慮、コストの縮減、環境施策推進、地域の事業者などに対する率先垂範、職員意識改革、質の向上などのため、平成12年にISO14001を認証取得して、引き続き維持及び地方機関への拡大を推進しています。

主な施策は次のようなものです。①ISO14001を取得し、環境配慮活動の実施を目指す企業などに対し、審査登録料及びコンサルタント料の一部を助成します。例えば、県は環境認証取得企業など育成補助金を提供します。②環境ISOを取得しにくく、コストも高いですから、より多くの中小企業や県民の方々が環境問題の取組ができるために、平成14年3月に全国の都道府県に先駆けて「鳥取県版環境管理システム(T

EAS)」を創設しました。このシステムは三種類の規格があり、いずれも審査は無料で、環境影響評価の方法や書類を一部省略し、計画実行及び活動点検などの方法も簡略化して、認証を受けやすいようなシステムです。平成16年版の「環境白書」によると、県内では69件の「TEAS」認証取得がありました。

#### (5) 水環境保全について

現在、中国の水環境は汚染が著しく、大変厳しい状況です。経済が急速に発展するにつれ、河川湖沼などの水質は、だんだん悪くなっています。中国国家環境保護総局の2005年6月の地表の水質報告によって、中国の七大水系は、珠江と長江の水質はまだ良い以外、その他の五つの河川の黄河、松花江、海河、淮河、遼河はすべて汚染され、そのうち、海河の汚染は最も深刻です。七大水系全部の194河川の394地点の調査の結果、50.8%で汚染が確認され、湖沼も29地点中19地点と、73.1%で汚染が確認されるなど、中国で緊急に対策が必要な課題となりました。経済が高度発達している日本の水は、とてもきれいで、味も美味しいです。日本に来る前、日本では生水を飲むのが本当に不思議だと思いましたが、私は大体7、8年前も生水を飲みませんでした。

日本に来た後、滋賀県の琵琶湖の湖岸で日本語を勉強した時、毎日湖岸で散歩して、緑山と広い湖面を見て、そんな美しい風景に感動しました。こんなきれいな水を見たことがないと考えていましたが、滋賀県の人々はそうと思いません。琵琶湖はあまりきれいではないと言い、とても心配しました。鳥取県の中海を含む三大湖沼にもこのような認識があります。売店に売っている洗剤は全部エコ認証された洗剤で、洗濯機の表面にも琵琶湖保全のため、洗濯注意が貼ってありました。みんなも意識的で適正的に洗濯します。その時から、中国から持って来た石鹼はずっと使いませんでした。

日本では中国よりもより厳しい水質基準が設定されており、処理施設の整備を進めています。また、昭和45年にはもう「水質汚濁防止法」を作成し、それから平成17年まで何回も改正しながら、より良い法律に整備を重ねています。中国の水質保全に関する法と比べて、日本の「水質汚濁防止法」のほうが先進的だと思います。例えば…

(1) 特定施設届出について、「水質汚濁防止法」はとても詳しく規制し、特定施設の設置、政令改定による使用、特定施設の変更、承継などを含む7種類の届出を掲載されていました。

(2) 工場企業への規制だけでなく、生活排水も規制します。法によって、公共用水域の水質に対する生活排水による汚濁負荷を低減するために生活排水処理施設の整備その他の生活排水対策に係わる施策の実施に努めなければなりません。そして、国民の責務などの施策もあります。

(3) 事故時の措置について、事故の届出、事業者の責務、県の責務が規制され、事

故発生時の対策を詳しく検討します。

(4) 地下水が汚染された時の対策も詳しく規定されます。

等が挙げられます。中国の「水污染防治法」にはこのような内容もありますが、具体的ではなく、実際には運用しにくい恐れがあります。

立ち入り検査した時、大部分の企業及び事業場が排出基準を達成できており、環境法律及び条例を守る自覚も高いと感じました。田舎でも完備な集落排水施設がありますので、本当に素晴らしいと思います。今中国のある企業は、利益のため、自覚があまり足りないので、行政管理を主とする環境保全取り組みだけでは、ちょっと大変かもしれないです。環境について法律、条例などがまだ完備されておらず整備が必要なこと、また企業も経済効率優先のから環境に対する意識を持つようにならなければ、これからも水環境が悪くなると思われます。

鳥取県には、湖山池、東郷池、中海があり、県内「三大湖沼」と言われ、県民の生活にとって、とても重要な場です。一方、高度経済成長期以降、周辺流域の社会経済活動や、生活習慣の変化に伴い、「三大湖沼」の水質は悪化しました。湖の水質を改善するためには、湖に流れ込む汚濁物質の量を減らすことが最も重要で、県、市町村流域の住民たちは協力して、下水道や合併処理浄化槽などの整備を推進するとともに、工場などの各種汚濁源に対する規制を行い、湖に流れ込む汚れを減らすことに努力を行っています。その結果として、県内の「三大湖沼」の水質は一定の改善が見られました。県のいろいろな対策のうちには、湖辺の自然環境の保全と山林の整備と環境にやさしい農業の促進などは、私にとって、習うべきことが多いです。これらの「複数の対策を総合して、各方面から水質改善を図る」という考え方は、我が国と比べてより先進的で効果があると思います。

中国では、国及び地方の水汚染事故を含む事故応急指針を作成したばかりで、経験も不足です。2005年11月の吉林省石油化学工場爆発事故について、政府がとても適正に処理しましたが、応急処置を取れないところも現れました。日本の経験とやり方を参考するのは、より意義があると思います。

## (6) 温暖化防止について

化石燃料をたくさん使い、温室効果ガスの濃度が上がりました。ますます明らかに地球の大気の温度が上昇していて、温暖化することは確実です。今の地球の平均温度はここ100年で0.6℃±0.2℃、日本では約1℃上昇しました。様々な温室効果ガスのうち、現在最も温暖化に影響を与えているのは、二酸化炭素です。この濃度は産業革命以降急激に上昇を続けており、産業革命前に比べて、3割も増加してします。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の第三次報告書によって、2100年までに1.4℃～5.8℃も上昇すると言われていています。地球温暖化問題は、単に気温が上がると

いうだけの問題ではありません。気温が急に上昇することによって、非常に大きな被害が起こると予想されています。例えば、生態系の移動力についていけないので、種の絶滅が大量に起こること、海面が上昇すること、異常気象が多発すること、洪水または乾燥による被害、経済にも食料生産にも大きな被害があります。例えば、2005年にアメリカのルイジアナ州ニューオーリンズはハリケーンで被災し、その損失は大体700億ドルから1300億ドルぐらいでした。それで、1997年に日本の京都で開催された「地球温暖化防止京都会議」において、温室効果ガス排出削減を規定した唯一の国際条約として、長期にわたる地球温暖化対策の重要な「京都議定書」ができました。「京都議定書」により、2008年～2012年の間に、温室効果ガスの排出量を、1990年のレベルより全体で5%以上削減する約束がなされました。

中国は世界の発展途上国としても「京都議定書」を署名しました。現時点では発展途上国には温暖化効果ガスの減排の義務がまだありませんが、政府も温暖化を防止するために努力しています。2003年、中国政府は中国の21世紀初持続可能な発展行動の要綱を制定しました。経済成長方式の転換と経済構造の調整を重視しながらも、資源とエネルギーの消費を減らし、利用の効率を上げ、衛生的な生産、工業汚染防止等の中国の産業政策の重要な構成部分とすることを進めました。

日本では、1998年6月にも「地球温暖化対策推進大綱」が決定され、1998年10月に専門法とする「地球温暖化対策推進法」が成立しました。そして「京都議定書」によって、日本は6%削減を目標として頑張っています。自然エネルギー普及を含む措置も行っていました。鳥取県では、事業者及び県民の責任の趣旨を踏まえながら、平成14年3月に策定した「地球温暖化に向けたアクションプログラム」に基づいて、地球温暖化防止対策を推進していました。2000年度における二酸化炭素排出量は1990年より、18.9%の増加率となっています。このような現状の中で、鳥取県としては、エネルギー起源の二酸化炭素排出量の削減、とりわけ運輸部門及び民生部門も削減を中心に取組みしています、運輸部門の9割を占める自動車からの二酸化炭素を削減するために、無駄なエンジンを停止し、いわゆるアイドリングストップに関する条例を制定し、環境にやさしい公共交通機関利用推進企業認定制度を設立し、県版の環境管理システムを制定し、高効率家電の情報を伝える「省エネラベル運動」を推進しています。例えば、ノーマイカーデー、アイドリングストップといった特別な県民運動を行って、県庁本庁が夏に28℃、冬には17℃を設定し、皆の手本となっている措置です。エネルギーの節約、効率的な利用以外、鳥取県も積極的に新エネルギーの利用を努力します。平成15年～18年度で、太陽光、風力などの自然エネルギー30000KWの導入を目指します。初めに中部の大きな風車を見た時、まだ工事中でしたが、現在では稼働を始めています。新エネルギーだけではなく、新たな景観も出ましたので、非常に壮観だと思いました。

## (7) その他の研修

これらの研修内容以外、私もたくさん他の部門で研修を受けました。鳥取東部福祉保健局や畜産課、農政課、防災課、景観まちづくり課、公園自然課、鳥取衛生環境研究所などで、私もたくさん研修内容を勉強しました。日本では、環境生態保全もいろいろ部門に浸透して、各々部門の仕事の基盤になりました。環境にやさしい畜産業や、有機農作物の推進や、食品リサイクル推進や、産業廃棄物リサイクル推進や、環境との調和を守るまちづくりなど、人々の生活と環境生態もう一体隣、様々な方面から、環境保全を行い、「環境的な」国を頑張っています。これらの研修はちょっと短かったですが、とても楽しかったと思います。

## 3 終わりに

日本での10カ月間は、短かったですが、私にとって生涯一番大切な財産で、絶対に忘れないと思います。日本のきれい道とみんなルールを守るのは、今まで私の一番心に残ることです。そして、私は25歳でしかなく、仕事も3年未満ですから、今度の研修は私にとって特別な意義であります。日本の先進的な環境理念、完備的な環境施策、すばらしい技術、特色のある文化を習ってもらって、今後の仕事と生活にも大きく、良い影響も生むと思います。何よりも一層の感動したことは、人々の親切だと思います。皆さんが手伝ってくれたおかげで、私の研修生活は面白く、楽しく過ぎました。10カ月間の研修で寂しさは全然ありませんでした。研修は無事に成功することができるようになりました。

最後に、親切な同僚たちと友達に、心からお礼を申しあげます。どうも、ありがとうございました。



循環型社会推進課で研修中の張研修員



井戸水の環境調査を行う張研修員



餃子パーティーを開催



友人らと一緒に大山登山

県 費 留 学 生  
(ブラジル)

## 1. 留学生プロフィール



氏 名 スエナガ アユミ  
 年 齢 25歳  
 国 籍 ブラジル  
 出 身 サンパウロ州サンパウロ市  
 研修分野 環境政策

## 2. 研修機関の概要

機関名 鳥取環境大学（環境政策学科） 鳥取市若葉台北一丁目1-1  
 代表者 鳥取環境大学学長 古澤 巖  
 指導者 鳥取環境大学環境政策学科 助教授 衣川 益弘

## 3. 研修経過

月 日	研 修 内 容
2005. 4. 5	来日、来県
4. 6	鳥取県国際課にあいさつ・鳥取環境大学にあいさつ
4. 7	しまね国際研修館に移動・オリエンテーション
4. 8	しまね国際研修館の授業開始
4. 17	とっとり花回廊
4. 22	日本文化体験・茶道
4. 25	くりんぴーすりサイクルプラザ見学
5. 13	日本語研修発表・鳥取に移動
5. 16	鳥取環境大学での研修開始
5. 17	県庁にあいさつ・砂丘と雨滝見学
8. 20	鳥取しゃんしゃん祭りに参加
9. 4	鳥取ブラジル友好団体連絡協議会歓迎会
9. 13	海外日系人大会（15日まで）
9. 20	研修旅行（東京）・海運会社川崎汽船に見学（21日まで）
9. 28	大学の授業開始
10. 27	中国・四国海外技術研修員合同交流事業（28日まで）
12. 4	日本語能力試験

12. 20	日系留学生中央研修会（23日まで）
2006. 1. 18	授業終了
2. 4	鳥取県国際交流財団主催のエクスカージョン参加（智頭町雪祭りなど）
3. 17	研修修了式・送別会に出席。研修成果を発表
3. 18	鳥取ブラジル友好団体連絡協議会送別会
3. 20	副知事に帰国前あいさつ
3. 23	離県

#### 4. 研修報告

##### （1）生活報告

日本に2回目（1回目は旅行）で他の国でも研修をしたことがあります。それぞれに習慣が違い、人々の考え方も違っていますが日本で生活することにはあまり困りませんでした。

日本人と相性が良かったかもしれません。私は日系人なので、少し日本人の考え方で育ってきたからだと思います。

来る前になぜ鳥取に来たいか、はっきり分からなくて不安でした。日本語も全然できなくて、家族と離れ、仕事を辞めて、ブラジルの空港で出発する時に本当に心配でした。日本に到着してからは、私の担当の人がいつも助け下さり、たくさん友達ができ、良い先生と勉強をして、最高の経験だと思っています。

もちろんどこでもいいことがあるし悪いこともあります。人生で初めてのいろいろな経験を過ごして、それがはっきりわかり、ブラジル人の考え方と比較して本当の日本人の性格が分かるようになったと思います。いい思い出だけをブラジルにもって帰りたいです。

いっぱい日本語の勉強ができて、専門の知識を高め、私自身もひとまわり大きくなって帰国できます。

##### （2）研究報告

###### はじめに

港及び海上セクターは国際貿易の基本であり、国際市場での国の競争力を保つために必要です。

ブラジルの海岸線には40以上の港があり、その沿岸は約8000キロメートルの

長さです。港はたくさんありますが、港の基盤は技術革新を必要としています。例えば、ブラジル最大の港では1時間に40コンテナが船に積まれています。シンガポールは100コンテナです。世界の中でブラジルの貿易は徐々に増えていますが港のインフラストラクチャーは大きな問題になっています。

そのために政府は運輸セクターの革新をスタートさせ、同時に環境計画も始めました。

両者は、英語で SYNERGY 効果の必要があると思っています。Synergy は Synchronize + Energy をあわせたものです。Synergy と言うのは、同時に2つの計画を進める力と言う意味です。最近、世界中の企業でよく使われている言葉です。

環境基準を効果的なものにするためには、組織に組み込まれて体系化されたマネジメントシステムの中で実施する必要があると考えます。そこで ISO 14001 である国際規格システムは環境方針を策定し、方針におけるコミットメントを達成するための目的及びプロセスを設定し、パフォーマンスを継続的に改善することができるようになっています。

とりわけ、私が日本で勉強した対象分野は ISO 14001 をとった海運会社についてです。

ISO 14001 を認証している海運会社はブラジルより日本のほうが多いので、その取り組みを学びブラジルに持って帰る予定です。

#### ①内容について

日本の大きな海運会社である、日本郵船と商船三井と川崎汽船を対象に ISO 14001 の取り組みの分析をしました。

#### ②分析の目的

- ・ 輸送船会社の環境問題を改善する方法。
- ・ 今後の環境問題の傾向
- ・ ISO 14001 におけるチャレンジ

#### ③方法

主な海運会社に関する環境側面の分析を通じて実施。

#### < 1. 安全運航 >

頻繁に点検する事と緊急対応体制を持つ事とテロの攻撃のために国際安全管理コード (ISPS Code) をそなえる事が安全な運航に重要です。

万一の事故などで穴や亀裂が生じた場合でも、燃料油流出のリスクを大幅に削減するために新造船の燃料タンクの二重化をすすめています。

海で事故があったら高い環境罰金が課せられるので、全社が心配しています。世界中で事故予防のために法律、訓練、審査等、徐々に増える傾向があります。

## < 2. 船体抵抗について >

船舶には船底の汚れによる船体抵抗の増加を防ぐため、船底に防汚塗料が塗られています。従来の防汚塗料<AF塗料>には、TBT（有機スズ）が含まれていたため環境問題を起こしていました。現在はTin Free（有機スズを含まない）塗料を採用しています。

また、船用風力発電機や風圧抵抗の少ない船型などの研究・開発を進めてきました。船舶の推進力について最新型は従来の自動車船に比べ風圧抵抗を2割カットし、少なくとも5%以上の燃費節減ができます。

船体抵抗、大気汚染、CO<sub>2</sub>排出量などについて、海運会社は環境に優しいように研究を進めているし、その研究した技術を新造船に取り込むように、絶えず努力をしています。この分野以外でも日本では一般的に新しいエコプロダクツが始まっています。世界の中で先進的な技術を持つ日本のエコプロダクツが徐々に輸出されるだろうと考えています。

## < 3. 水問題について >

船舶の姿勢を安定させるために積み込む海水がバラスト水です。海について海運会社が一番大きな環境問題の一つです。

バラスト水には海洋生物や病原体等が含まれているので、ほかの海域で排出されるとその海洋物や病原体等の一部が新海域に定着するので環境汚染の問題になります。その問題についてはIMO（International Maritime Organization：国際海事機関）において「バラスト水の規則及び管理に関するガイドライン」が定められています。このガイドラインを定めるのにあたり、先行してバラスト水に関する規則を実施していた国々の規則を導入しました。

船内での廃棄物についてはMARPOL 73/78（International Convention for the Prevention of Pollution from Ships：海洋汚染予防止条約安全管理システムの諸マニュアル）により適切に管理し、処理しています。

その他にも海洋汚染予防をしている国に他の国の海洋汚染の影響が見られ、汚染予防した国の海岸も汚れてしまうという問題があります。このことについては、先進国のほうがもっと意識が高いので、発展途上国に理解してもらわないといけないと考えます。

ブラジルの場合にはいろいろな意識を高めるためのキャンペーンがあります。また予防に関する法律が増えているし、大事故、例えば、フランスではAmoco Cadiz、アラスカではExxon Valdez、最近のスペインではPrestigeという例を見て、政府が海

洋汚染予防のために法律作るべきだと考えたことを新聞で読みました。

#### < 4. 大気問題について >

海運会社がCO<sub>2</sub>排出量を削減するために余裕を持った運行計画や、新造船建造計画による最新機器、設備の改善または新設と省燃費型や電子制御エンジンの採用、排気ガスエコマイザー及び一部の船舶にはタービン発電機を設置しています。

国際航空機や船舶で使用する燃料の燃焼に伴うCO<sub>2</sub>排出量の規制については、各国への割り当ての問題から現在の京都議定書には含まれていません。しかし、国際海運協会（IMO）を通じ独自の排出抑制や削減に取り組まれています。「2010年に、1990年に対する輸送単位当たりのCO<sub>2</sub>排出量を10%削減する」という業界目標を掲げています。

ISO14001の認証が始まった当初から現在まで海上輸送の需要は大変高く、思ったほどCO<sub>2</sub>排出量は削減されていません。それはこの期間は港の混雑も世界各地で発生したためスケジュールの遅れを挽回するために燃料をたくさん使ってスピードを上げたりしなくてはならなかったからです。しかし1990年から10%の効率をあげています。

また、オゾン層破壊が極めて大きい特定フロン（R-12）の使用から、影響の少ない特定フロン（R-22）を経て、現在はオゾン層破壊係数ゼロの代替フロン（R-134）への切り替えを進めています。

船舶の食糧用冷凍機や空調機に対しても、新造船ではより環境にやさしいR-404aなどの代替フロンの採用拡大を図りつつあります。

ブラジルでは海岸線が長く、人口は沿岸に集中しているので北から南まで船での運搬を、政府は奨励しています。日本のように、電車での運搬が良いと考えますが、残念ながらブラジルではまだ鉄道線が少なく道路のほうが多い現状です。トラックで運ぶことは最も問題が多いと思います。CO<sub>2</sub>排出量が高いし、事故が多く、またブラジルでは道路でトラックを盗まれることが多いので勧められません。徐々にLNGトラックが増えると考えますが多量を長距離で運ぶ場合は船で運ぶことがより環境にとっていいことだと考えます。

#### 終わりに

ISO14001の認証取得を契約時の評価基準にしているなど、ビジネス上有利となるケースも出てきており、またISO14001のお陰で企業の意識が高くなり、汚染の予防にもなっています。

鳥取環境大学での授業で理解したことは、日本やヨーロッパではISO14001を採用している企業が多いですが、世界の中では、まだまだ発展中の国が多いです。

この国際規格のこれからのチャレンジは、これらの発展中の国の意識をもっと高めていくことで、そのためには発展途上国と先進的な国との間での情報交換をもっと進めることが重要になってきます。同時に、1つの国の中でも企業間や地域間でのISO 14001の情報を共有するべきだと考えます。

ブラジルで海運会社の環境報告はまだ発行されていませんが、多くの会社がISO 14001に取り込んでいます。日本の輸送船会社の環境問題を改善する方法とISO 14001の勉強をして良かったです。私にはこのことがブラジルで役に立つことと思います。この様なことにより、ブラジルと日本の交流が続くことと考えています。

この他に、ブラジルと日本の交流に今後役立つと考えていることがあります。ブラジルでは車に使用されているガソリンに25%アルコールを混合しています。そうすると燃料が安くて環境にも優しいです。去年の9月ブラジルの大統領がアルコールの輸出の話をしに来ました。交流をもっとすすむように、環境に優しい、アルコールが輸出されることを希望しています。

私たちがのような大学や企業での研修生のプログラムを通して、日本の技術の研究をする機会が増えることも希望しています。



川崎汽船を見学



しゃんしゃん祭の準備



日本語教師の池原美恵子先生と両親と一緒に



海外日系人大会に参加して



# 名 簿

## 海外技術研修員

年 度	国籍・出身地	氏 名	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和 63)	ブラジル	中原 清治 パウロ	男	農地灌漑	鳥取大学農学部
1989 (平成元)	ブラジル	伊藤 誠 パウロ	男	園芸 (果実処理 技術)	鳥取大学農学部
		山根 猛 セルジオ	男	コンピュータ ・システム	鳥取大学工学部、鳥取県情報セ ンター
1990 (平成 2)	ブラジル	伊藤 万里夫	男	歯科治療	県立中央病院
		河上 リジア ベロニカ	女	理学療法	皆生小児療育センター
1991 (平成 3)	ブラジル	西尾 リナ 佳代子	女	建設設計	米子工業高等専門学校
		菊留 恵 ルシア	女		
1992 (平成 4)	ブラジル	河上 ファビオ 竹一	男	システム工学	鳥取大学工学部
1993 (平成 5)	ブラジル	門脇 エジソン	男	農業分析化学	鳥取大学農学部
		加藤 モニカ みち子	女	グラフィック ・デザイン	米子工業高等専門学校
1994 (平成 6)	ブラジル	細田 眞一 エルシオ	男	果樹栽培	鳥取大学農学部
		米原 ルシアーナ	女	海水魚栽培	県水産試験場
1995 (平成 7)	ブラジル	加藤 ベロニカ あけみ	女	歯科治療	県立中央病院
		河上 マリシー	女	企業経営	鳥取ガス
	中国吉林省	林建華 (リン ジェンホワ)	女	衛生行政	県医務薬事課
	モンゴル中央県	ダグワドルジ バトバヤル	男	地方行政	県市町村振興課
1996 (平成 8)	ブラジル	河井 美智恵 ルシアナ	女	臨床検査	県立中央病院
	中国吉林省	沈在成 (チン ザイチェン)	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ブラジル	西坂 マルリ れいか	女	会計事務	中尾税経事務所
		吉田 ますみ ルシー	女	歯科治療	県立中央病院
	中国吉林省	陳香林 (チン シャンリン)	女	商工行政	県商政課
	モンゴル中央県	バヤルバト ボルドバートル	男	行政一般	県市町村振興課
1998 (平成 10)	ブラジル	中尾 ソランジェ	女	広告一般	デザインスタジオ石山
	中国吉林省	曹仁秋 (ツァオ レンチュウ)	男	商工行政	県商政課
		杜 軍 (ドゥ ジュン)	男	環境行政	県衛生研究所
	モンゴル中央県	バルガルスレン エルデネバト	男	農業	農業大学校、園芸試験場
ツェレンドルジ アリマントヤ		女			
1999 (平成 11)	ブラジル	岩水 ミリアン 恵美	女	食品加工	大伸水産
		高橋 クリスティーナ 理恵	女	広報・報道	新日本海新聞社
	中国吉林省	玉冬輝 (ワン ドンフィ)	男	商工行政	県商政課

1999 (平成 11)	モンゴル中央県	トゥグスオチル バヤルフー	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及センター
		ソソルバラム ウラーンツェグ	女		
2000 (平成 12)	ブラジル	西森 由美香	女	歯科治療	県立中央病院
		山本 リア	女	土木	県管理課
	中国吉林省	崔成岩 (ツウイ チョンヤン)	男	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	エレンダワー ガンボルド	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ナワンバルダン トウムルトヤ	女		
2001 (平成 13)	ブラジル	大原 高取 ビビアネ	女	宣伝・広告	鳥取県産業技術センター
	中国吉林省	呉英蘭 (ウ イェンラン)	女	商工行政	県経済通商課
	モンゴル中央県	チョイジャムツ バヤラー	男	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、鳥取 農業改良普及部
		ソンドイ ウランチメグ	女		
2002 (平成 14)	ブラジル	エリカ サナエ カゲヤマ	女	建築	杵村建築設計事務所、米子工業 高等専門学校
	パラグアイ	谷口 まゆみ	女	情報技術	エコシステムクリエイター
	中国吉林省	許長春 (シウ チャンチュン)	男	環境	県衛生環境研究所
		郭大衛 (クオ ターウェイ)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	スレンホルロ ガンチメグ	女	野菜栽培	農業大学校、園芸試験場、八頭 農業改良普及所
		バトジャルガル ツォグトサラ ン	男		
2003 (平成 15)	ブラジル	エリカ ナオミ カトウ	女	環境	県生活環境部
		ルシアナ ケラ	女	都市設計	県環境政策課、白兔設計事務 所、鳥取環境大学
	中国吉林省	李守祥 (リ シュショウ)	男	環境	県環境政策課、衛生研究所
		朴 晟 (ピャオ シュン)	男	商工行政	県経済交流課
	モンゴル中央県	ダシゼバグ チョルーンツェツ ェグ	女	農業	農業大学校、園芸試験場、鳥取 大学農学部
2004 (平成 16)	ブラジル	ジナー サユリ イワミズ	女	建築設計	鳥取環境大学
	モンゴル中央県	オンゴードイ ムンフトヤ	女	農業	農業大学校、園芸試験場

### 中国河北省技術研修生

年 度	氏 名	性別	研修内容	研修先
1992 (平成 4)	臧恩宝 (ズアン エンパオ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門学校
1993 (平成 5)	何利華 (ホ リーホァ)	男	自動車整備	倉吉高等技術専門学校
	王 軍 (ワン ジュン)	男		

### 中国河北省農林漁業研究者

年 度	氏 名	所 属	性別	研修内容	研修先
1988 (昭和 63)	殷録閣 (イン ルーコウ)	水産研究所	男	栽培漁業	栽培漁業試験場
	何建平 (ホー チンピン)	秦皇島市畜牧水産局	男		
1989 (平成元)	閻乃庚 (エン ダイコウ)	農林科学院	男	果樹栽培	果樹野菜試験場
	李光照 (リ グァンジャオ)		男		
1990 (平成 2)	焦長明 (チャオ チャンミン)	農林科学院	男	生物工学	果樹野菜試験場
1991 (平成 3)	程増書 (チョン ゾンシュ)	農林科学院	男	生物工学	果樹野菜試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)	河北省林業局	男		
1992 (平成 4)	張麗潔 (ジャン リジェ)	農林科学院	女	果樹栽培	園芸試験場
	崔 洋 (ツイ ヤン)		男	生物工学	鳥取大学
1993 (平成 5)	吐永清 (トゥ ヨンチン)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
	曾憲坤 (ゾン シエヌクウヌ)	永清県林業局	男	砂地果樹	
1994 (平成 6)	高志傑 (ガオ ジジェ)	農林科学院	男	野菜栽培	園芸試験場
	張素芳 (チャン スーフアン)		女	土壤肥料	農業試験場
1995 (平成 7)	齊秀菊 (チ シウジュ)	農林科学院	女	野菜病害防除	園芸試験場
1996 (平成 8)	高林森 (ガオ リヌセス)	農林科学院等	男	甘柿栽培	園芸試験場
	高延庁 (ガオ イェンティン)		男	花き栽培	
	溢春秀 (イ チュヌシウ)		女		
	及 華 (ジイ ホア)		女		
1997 (平成 9)	孫嵐国 (スヌ ラヌグオ)	農林科学院	男	果樹栽培	園芸試験場
1998 (平成 10)	楊建波 (ヤン ジェヌボ)	大名県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
1999 (平成 11)	姜玉生 (ジャン ユイション)	固安県蔬菜管理局	男	野菜栽培	園芸試験場
2000 (平成 12)	李克健 (リ コウチン)	曲陽県林業局	男	果樹栽培	園芸試験場
	王明秋 (ワン ミンシュウ)	農林科学院	男	野菜栽培	
2001 (平成 13)	馮樹亮 (フォン シュリアン)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2002 (平成 14)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場
2003 (平成 15)	鄭 礼 (チョン リー)	農林科学院	男	防除技術	園芸試験場

### 中国河北省農業研修生・緑化研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1987 (昭和 62)	団長	邸濟民 (テイ ジーミン)	男	果樹栽培	東伯郡関金町 山本守夫氏
	副団長	王国華 (ワン グォホア)	男	野菜栽培	倉吉市 河本増雄氏
	団員	高延庁 (ガオ イェンティン)	男	果樹栽培	東伯郡東伯町 河本茂氏
		張風榮 (ジャン フォンロン)	男	花き栽培	気高郡鹿野町 今本徹氏

1987 (昭和 62)	団員	王迎濤 (ワン インタオ)	男	果樹栽培	倉吉市 田中秀人氏
1988 (昭和 63)	団長	張連仁 (ジャン リエンレン)	男	果樹栽培	倉吉市 福井光隆氏
	副団長	韓振延 (ハン ジェンイェン)	男		東伯郡関金町 山本守夫氏
	団員	王 強 (ワン チャン)	男		東伯郡赤碕町 石賀昭一氏
		彭進友 (ボン ジンイオウ)	男		倉吉市 松本俊一氏
1989 (平成元)	団長	邢永才 (ジン ヨンツァイ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡中山町 井上智光氏
	団員	梁義春 (リャン イーチュン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井利幸氏
		徐東端 (シュイ ドンドアン)	男	野菜栽培	農業大学校、倉吉市 上村富士雄氏
		蔣喜田 (ジャン シーチャン)	男		農業大学校、東伯郡大栄町 梅津良善氏
1990 (平成 2)	団長	王振一 (ワン ジェンイ)	男	果樹栽培	農業大学校、倉吉市 大野俊一氏
	団員	周延文 (ジョウ イアンウェン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡北条町 石川孝平氏
		劉福辰 (リュウ フウチェン)	男	畜産	農業大学校、東伯郡東伯町 川本正一郎氏
1991 (平成 3)	団長	楊大宇 (ヤン ダユイ)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木初巳氏
	団員	張少飛 (ジャン シャオフェイ)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
		高林森 (ガオ リンセン)	男	イチゴ	農業大学校、気高郡青谷町 田中正人氏
		呉鉄園 (ゴ ティエユアン)	男	果樹 (機械)	農業大学校、八頭郡八東町 秋山宏樹氏
		席会民 (シィ ホオイミン)	男		農業大学校、八頭郡郡家町 小林洋吉氏
1992 (平成 4)	団長	高玉軍 (ガオ ユイジュン)	男	果樹栽培	農業大学校、米子市 前田貢氏
	団員	謝曉亮 (シェ シャオリアン)	男		農業大学校、西伯郡淀江町 綾木健一氏
		魏建国 (ウェイ ジェンゴウ)	男		農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		段丙武 (ダン ビンウ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 岩井幸氏
		胡英輝 (フウ インホエイ)	男	野菜栽培	農業大学校、日野郡溝口町 遠藤達也氏
1993 (平成 5)	団長	白韶雪 (バイ シャオシュエ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 森田久好氏
	団員	丁振京 (ティン ジェンジン)	男		農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
		魏建秋 (ウェイ ジェンチウ)	男		農業大学校、東伯郡赤碕町 入江重吉氏
		李志強 (リ ジィチャン)	男	酪農	農業大学校、東伯郡東伯町 徳丸安男氏
		李躍進 (リ ユエジン)	男	砂丘園芸	農業大学校、東伯郡北条町 榎田富裕氏
1994 (平成 6)	団長	張曉義 (ジャン シャオイー)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
	団員	王 忠 (ワン ジョオン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
		陳 雪 (チェン シュエ)	男		農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明俊氏
		榮 新 (ルウオン シン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 山根徳之氏
		邵吉祥 (シャオ ジィシアン)	男		農業大学校、岩美郡福部村 安田豊実氏
1995 (平成 7)	団長	孫風国 (ジュン クニクオ)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡大山町 提嶋勇治氏
	団員	鮑紀剛 (バオ チークァン)	男		農業大学校、西伯郡会見町 赤井剛毅氏
			張 威 (チャン ウィ)	男	野菜栽培

1995 (平成 7)	団員	趙志軍 (チァオ チージュン)	男	野菜栽培	農業大学校、米子市 福島康孝氏
		干海良 (ユ ハイリヤン)	男	畜産栽培	農業大学校、西伯郡名和町 谷永憲雄氏
1996 (平成 8)	団長	馬建秋 (マー チェンチュウ)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡関金町 藤井一良氏
	団員	曹海峰 (ツァオ ファンフェン)	男		農業大学校、東伯郡東伯町 岩本典行氏
		楊金昭 (ヤン チンチャオ)	男		農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏
		崔増力 (ツツイ チェンリ)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 山下正美氏
		馬国平 (マー クォピン)	男		農業大学校、東伯郡大栄町 森本真樹男氏
1997 (平成 9)	団長	劉 偉 (リュウ ウェ)	男	果樹栽培	農業大学校、岩美郡福部村 安田豊夫氏
	団員	張孟傑 (ハン モンジェ)	男		農業大学校、八頭郡八東町 木原剛嗣氏
		祈建増 (チイ ジェンゾン)	男		野菜栽培
		姚聖軍 (ヤオ ションジュン)	男	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏	
		張加国 (ジャン ジアグォ)	男		甘柿
1998 (平成 10)	団長	張志安 (ジャン チアアン)	男	果樹栽培	農業大学校、西伯郡淀江町 清水綾子氏
	団員	韓 偉 (ハン ウェイ)	男		農業大学校、西伯郡名和町 米沢誠一氏
		封志平 (フウ チィピン)	男	甘柿	農業大学校、西伯郡会見町 石塚誠一氏
		丁雪京 (ディン シュエジン)	男	野菜栽培	農業大学校、境港市 渡部武治氏
		趙利波 (チァオ リーブウ)	男		農業大学校、西伯郡中山町 秋田実氏
		崔良龍 (ツイ リャンロン)	男		農業大学校、日野郡日南町 池田尚弘氏
吳炳奇 (ウー ジュンウエン)	男	果樹栽培	農業大学校、東伯郡東郷町 谷口憲昭氏		
高俊文 (カオ ジュンウエン)	男		農業大学校、東伯郡赤碓町 田中哲馬氏		
1999 (平成 11)	団員	尼群周 (ニー チュンチョウ)	男	甘柿	農業大学校、東伯郡東郷町 福本巧氏
		武 斌 (ウー ビン)	男	野菜栽培	農業大学校、東伯郡大栄町 梅津博文氏
	王海東 (ワン ハイドン)	男	農業大学校、東伯郡東伯町 小前二郎氏		
	蔣丙文 (ジャン ビンウエン)	男	農業大学校、倉吉市 大野俊一氏		
	2000 (平成 12)	団長	魏建国 (ウェイ ジェングー)	男	果樹栽培
団員	馬海国 (マ ハイグー)	男	農業大学校、気高郡青谷町 長谷川義博氏		
	楊端剛 (ヤン ルイガン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷廣太郎氏	
	魯 明 (ルー ミン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡郡家町 毛利克征氏	
2002 (平成 14)	団長	王春龍 (ワン チュンロン)	男	林業	鳥取県山林樹苗協同組合、林業試験場
	団員	肖 鋒 (シアウ フォン)	男		
		于小軍 (ウィ シアオジュン)	男		
		王鉄峰 (ワン ティエフォン)	男		
		龚志勇 (グワン チーユン)	男	畜産	鳥取県畜産振興協会鳥取放牧場河合谷分場、畜産試験場

2003 (平成 15)	団員	楊耀耀 (ヤン ヤオホイ)	男	林業	鳥取県森林組合連合会、鳥取森林管理署、鳥取県山林樹苗協同組合
		呉 濤 (ウー タオ)	男		
		柳全芬 (リュ チュワンフェン)	男	畜産	倉吉家畜保健衛生所、鳥取畜産農業協同組合、大山乳業農業共同組合
		高衆迎 (カオ チュンイン)	男		

### 中国黒竜江省農業研修生

年 度	区分	氏 名	性別	研修内容	研修先及び受入農家
1995 (平成 7)	団長	梁桂誠 (リャン クイチョン)	男	果樹栽培	農業大学校、鳥取市 鈴木茂氏
	団員	牛明君 (ニウ ミンチュン)	男	野菜栽培	農業大学校、八頭郡八東町 小谷広太郎氏
		李光印 (リ コワンイン)	男	稲作・果樹	農業大学校、八頭郡佐治村 西尾明敏氏

### 韓国江原道行政実務研修生

年 度	氏 名	性別	研修内容	研修先
1993 (平成 5)	崔炯奎 (チェ ヒョンギュ)	男	地方行政	県市町村振興課
1994 (平成 6)	金星鎬 (キム ソンホ)	男	地方行政	県市町村振興課
1995 (平成 7)	李昇燮 (イ スンソップ)	男	行政管理	県職員課
1996 (平成 8)	朴根泳 (パク グンニョン)	男	地方行政	県市町村振興課
1997 (平成 9)	鄭官容 (チョン グァンヨン)	男	行政一般	県環境政策課
1998 (平成 10)	李掲烈 (イ グンニョル)	男	文化行政	県教育委員会文化課
1999 (平成 11)	白昶錫 (ペク チャンソク)	男	行政一般	県市町村振興課
2000 (平成 12)	安鏞辰 (アン ヨンジン)	男	農業行政	県生産流通課
2001 (平成 13)	鄭丞弼 (チョン スンビル)	男	行政一般	県市町村振興課
2002 (平成 14)	金光善 (キム グァンソン)	男	農林行政	県農林水産部
2003 (平成 15)	盧希宣 (ノ ヒソン)	女	農林行政	県農林水産部
2004 (平成 16)	姜熙星 (カン ヒソン)	男	行政一般	県総務部

### 自治体職員協力交流研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1996 (平成 8)	ベトナム	グエン キム フォン	男	商工行政	県商政課
1997 (平成 9)	ベトナム	レ バン クイ	男	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	韓国 (江原道)	金東旭 (キム ドンウク)	男	観光行政	県観光課
	マレーシア	モハット ノール ハシム	男	行政一般	県国際課
1999 (平成 11)	韓国 (江原道)	黄貞淑 (ファン ジョンスク)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王 霞 (ワン シャア)	女	環境	県衛生研究所

2000 (平成 12)	韓国 (江原道)	全珍杓 (チョン ジンピョ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	趙 青 (ジャオ チン)	女	環境	県衛生研究所
2001 (平成 13)	韓国 (江原道)	金美慶 (キム ミギョン)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王立群 (ワン リチュイン)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2002 (平成 14)	韓国 (江原道)	林泰虎 (イム テホ)	男	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	王宏偉 (ワン ホンウエイ)	男	文化行政	県国民文化祭推進局
2003 (平成 15)	韓国 (江原道)	元鴻植 (ウォン ホンシク)	男	福祉行政	県福祉保健課
		南鎮宇 (ナム ジンウ)	男	環境行政	県生活環境部
2004 (平成 16)	韓国 (江原道)	姜垈希 (カン ギョンヒ)	女	福祉行政	県福祉保健課
	中国 (吉林省)	徐 波 (シュウ ボウ)	男	商工行政	県経済交流課

### 外務省長期青年招聘事業研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1995 (平成 7)	モンゴル	ヤンザン セレンゲ	女	商工行政	県商工振興課
1996 (平成 8)	ミャンマー	ミン イン セイン	女	商工行政	県商政課
1998 (平成 10)	ミャンマー	コ コ ナイン	男	商工行政	県商政課
1999 (平成 11)	ベトナム	グエン タイ ビン	男	文化振興	県文化振興課
	カンボジア	サーン ビルナー	男	商工行政	県商政課
2000 (平成 12)	ミャンマー	ナン キン ヌ	女	文化振興	県文化振興課

### 国際協力機構 (JICA) 自治体連携研修員

年 度	国 籍	氏 名	性別	研修内容	研修先
1999 (平成 11)	モンゴル (中央県)	バルジンニヤム デルゲルツォグト	女	循環器科医療	県立中央病院
2000 (平成 12)	モンゴル (中央県)	イシ オユンチメグ	女	内科・産婦人科医療	県立中央病院
2001 (平成 13)	モンゴル (中央県)	ジンバー ビンバジャブ	女	脳神経外科・脳神経 内科医療	県立中央病院
2004 (平成 16)	モンゴル (中央県)	スヘー オユンツェツェグ	女	産婦人科医療	県立中央病院

## ブラジル県費留学生

年 度	氏 名	出身市町村 (旧名)	性別	大学等	学部	専 攻	ブラジルでの住所
1965 (昭和 40)	山添 勝子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部		サンパウロ州サンパウロ市
1966 (昭和 41)	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理	サンパウロ州サンパウロ市
1967 (昭和 42)	中井 佐代子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	児童心理	サンパウロ州サンパウロ市
1968 (昭和 43)	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育	サンパウロ州サンパウロ市
1969 (昭和 44)	橋浦 晴江	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	児童教育	サンパウロ州サンパウロ市
	山添 美智子	若桜町	女	鳥取大学	教育学部	農村社会	サンパウロ州サンパウロ市
1970 (昭和 45)	鈴木 陽子	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	建築	サンパウロ州サンパウロ市
	伊木 信子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育	サンパウロ州サンパウロ市
1971 (昭和 46)	成田 敬	米子市	男	鳥取大学	教育学部	産業概論	サンパウロ州エシャボラン市
	明德 薫	琴浦町 (東伯町)	男	鳥取大学	工学部	地域計画	サンパウロ州サンパウロ市
1973 (昭和 48)	加藤 ルイザ	北栄町	女	鳥取大学	教育学部	教育制度	サンパウロ州サンパウロ市
	加藤 輝子 ネリー	(北条町)	女	鳥取大学	教育学部	障害児教育	サンパウロ州サンパウロ市
1974 (昭和 49)	平 ネウザ	日野町	女	鳥取大学	教育学部	国際貿易	サンパウロ州サンパウロ市
	松下 美智子 エレーナ	八頭町 (船岡町)	女	鳥取大学	教育学部	社会福祉	サンパウロ州サンパウロ市
1975 (昭和 50)	徳尾 リリア 淑子	日南町	女	鳥取大学	医学部	労働医学	サンパウロ州サンパウロ市
	加藤 早苗 アンナ	北栄町 (大栄町)	女	鳥取大学	教育学部	日本語	サンパウロ州サンパウロ市
1976 (昭和 51)	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築	サンパウロ州モジダスクルーゼス市
1977 (昭和 52)	伊藤 初美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	工学部	建築	サンパウロ州モジダスクルーゼス市
	渡部 輝子	境港市	女	鳥取大学	教育学部	日本文化、教育制度	パラナ州マリアルバ市
1978 (昭和 53)	竹内 綾子	倉吉市	女	鳥取大学	教育学部	体育	サンパウロ州バストス市
	前原 一禮	米子市	男	鳥取大学	農学部	農業経営	パラナ州マリンガ市
1979 (昭和 54)	平木 育子	米子市	女	鳥取大学	医学部	小児科	サンパウロ州サンパウロ市
	岩本 増典	三朝町	男	鳥取大学	医学部	婦人科	サンパウロ州ボンペイア市

1980 (昭和 55)	高見 ロウルデス 早苗	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	細菌学	サンパウロ州サンパウロ市
	菊留 暁美	三朝町	女	鳥取大学	教育学部	心理学	サンパウロ州サンパウロ市
1981 (昭和 56)	伊藤 清美	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	教育学部	栄養学	サンパウロ州モジダスクルーゼス市
	山下 八重子	三朝町	女	鳥取大学	工学部	地域計画	パラナ州ロンドリーナ市
1982 (昭和 57)	平木 悦子	米子市	女	鳥取大学	医学部	産婦人科	パラナ州ベレン市
	孝美 アメリア 美知江	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	電機計算機	サンパウロ州サンパウロ市
1983 (昭和 58)	霜田 美夕起	湯梨浜町 (東郷町)	女	鳥取大学	医学部	難聴治療	サンパウロ州サンパウロ市
	橋浦 富代	岩美町	女	鳥取大学	教育学部	地理学、自然 科学	サンパウロ州サンパウロ市
1984 (昭和 59)	岩本 デニゼ	三朝町	女	鳥取大学	工学部	都市計画	サンパウロ州サンパウロ市
	岩本 エリーゼ 明己		女	鳥取大学	医学部	歯科	サンパウロ州サンパウロ市
1985 (昭和 60)	加藤 五月 デイ ジー	鳥取市	女	鳥取大学	教育学部	現代日本語基 礎教授法	サンパウロ州サンパウロ市
	桑田 クリスティ ーナ 愛子	若桜町	女	鳥取大学	医学部	ウイルス学	サンパウロ州グワルーリョス市
1986 (昭和 61)	関山 理香 ジュ リエッタ	鳥取市	女	鳥取大学	医学部	内科学	サンパウロ州サンパウロ市
	長田 デルザ	倉吉市	女	鳥取大学	医学部	衛生産科婦人 科学	サンパウロ州サンパウロ市
1987 (昭和 62)	河崎 幸子 クレ ミルダ	倉吉市	女	鳥取大学	工学部	コンピューター	サンパウロ州ツッパン市
	小村 真澄 マリ ーザ	伯耆町 (岸本町)	女	鳥取大学	工学部	コンピューター	サンパウロ州ピエダーデ市
1988 (昭和 63)	武田 さつき ジ ュリア	伯耆町 (溝口町)	女	鳥取大学	教育学部	デザイン	サンパウロ州サンパウロ市
1989 (平成元)	川崎 ミチエ ク リストティーナ	琴浦町 (東伯町)	女	鳥取大学	工学部	土木材料学	サンパウロ州カンピーナス市
1990 (平成 2)	吉田 美幸 ミリ アン	鳥取市 (福部村)	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	日本の建築技 術等	サンパウロ州サンパウロ市

1991 (平成 3)	本橋 敏江 クリ スティーナ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	知能情報工学	サンパウル州サンパウル市
1992 (平成 4)	清水 ラケル	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	保健体育学	サンパウル州サンパウル市
1993 (平成 5)	羽島 月江	米子市	女	米子工業高等 専門学校	建築学科	デザイン	サンパウル州サンパウル市
1994 (平成 6)	淵田 クリスティ ーナ あゆみ	鳥取市	女	鳥取大学	教養部	日本語	サンパウル州サンパウル市
1995 (平成 7)	清水 デニーゼ	鳥取市	女	鳥取大学	工学部	地質水質学	サンパウル州サンパウル市
1996 (平成 8)	西尾 エリーザ 真理	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	工学部	品質管理	サンパウル州サンパウル市
1999 (平成 11)	細田 アダウベル ト 英二	伯耆町 (溝口町)	男	鳥取大学	地域教育 学部	情報処理	サンパウル州サンパウル市
2000 (平成 12)	大橋 ルシア み ちこ	智頭町	女	鳥取大学	農学部	水質浄化	サンパウル州カンピーナス市
2001 (平成 13)	井上 友子 マル ガリータ	米子市	女	鳥取大学	農学部	農業経営	サンパウル州サンパウル市
2003 (平成 15)	カリーナ メグミ ニシオ	鳥取市 (河原町)	女	鳥取大学	農学部	食品衛生・畜 産物加工	サンパウル州サンパウル市
2004 (平成 16)	ウゴ ヤマシロ	八頭町 (船岡町)	男	鳥取大学	医学部	内科学	サンパウル州サンパウル市

平成17年度（2005年度）  
鳥取県海外技術研修員等  
研修報告書

平成18年（2006年）3月

発行 鳥取県総務部国際課  
〒680-8570  
鳥取市東町一丁目220  
電話 0857-26-7030